

令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

群馬県伊勢崎市

自治体名：群馬県伊勢崎市

担当課名：教育委員会学校教育課

電話番号：0270-27-2790

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	139.44km ²
人口	211,651人
公立中学校数	12校
公立中学校生徒数	5,669人
部活動数 (運動部活動のみ)	204部活
地域クラブ活動数	9クラブ
市区町村の協議 会・検討会議等 の設置状況	設置済
市区町村の推進計 画・ガイドライン等の 策定状況	未策定

地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

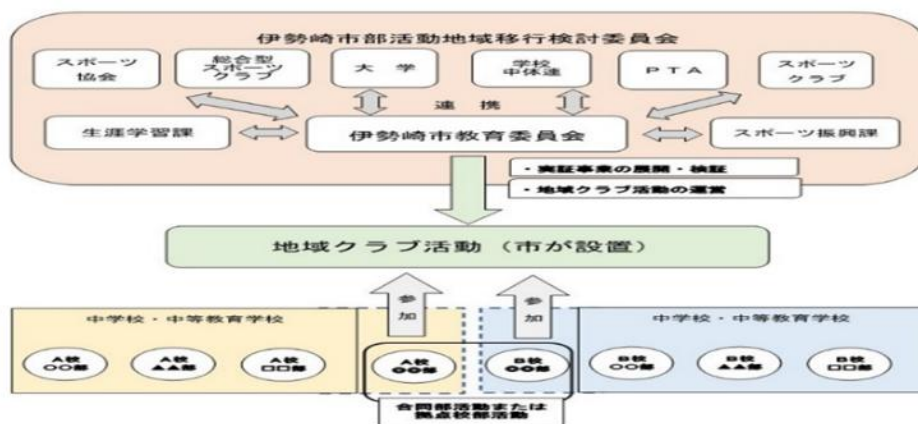
○伊勢崎市における現状・課題

- 令和6年度は、合同部活動を市が設置した地域クラブ活動に認定し、5競技6クラブで実証事業を行ってきた。今年度は、それらに加え、専門性の高い指導と安全面の配慮が求められる体操と新体操について、学校や伊勢崎市体操協会と調整しながら、新規の取組を行うことができた。
- 今年度は、10月、2月に検討委員会を開き、本市独自の指導者人材リストについて協議し、作成に向けて動き出した。また、来年度以降の本市の方向性について確認し、今後必要な取組について協議を行った。
- 指導者人材リストへの登録に向けて、学校教育課の担当指導主事と部活動地域移行コーディネーターが、伊勢崎市PTA連合会理事会、公民館長会議、伊勢崎市スポーツ協会理事会、体育推進委員会議に出向き、部活動地域展開の概要や指導者人材リストの趣旨等を説明した。また、伊勢崎市スポーツ協会事務局から、各連盟に人材リストへの登録依頼を行った。
- 地域クラブ活動に参加している生徒・保護者・顧問にアンケートを実施した。生徒のアンケート結果から、およそ8割が地域クラブ活動の取組を肯定的に捉えていた。また、およそ5割が、今後も休日は地域クラブで活動したいと回答した。保護者のアンケート結果から、およそ8割が地域クラブ活動の取組を肯定的に捉えていた。しかし、送迎面や金銭面に負担を感じる意見があった。顧問のアンケート結果から、およそ6割の顧問が負担感が軽減されたと回答した。しかし、会場までの移動、けがやトラブルへの対応等に不安を感じる意見があった。

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●市区町村における推進体制図



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会（学校教育課）

- ・部活動の地域展開に係る企画および計画の立案に関すること
- ・地域スポーツクラブ活動体制整備事業の運営主体
- ・中学校等と関係機関との連携に関すること
- ・部活動の安全管理および指導助言に関すること

◎首長部局（スポーツ振興課）

- ・部活動地域移行検討委員会事務局

年間の事業スケジュール

- | | |
|---------|--|
| 令和7年4月 | <ul style="list-style-type: none"> ・実証事業参加校説明会 ・地域スポーツクラブ活動開始 ・コーディネーターとの打合せ |
| 令和7年5月 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域展開に係る学校訪問① ・市体操協会との打合せ |
| 令和7年6月 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域展開に係る学校訪問② |
| 令和7年7月 | <ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーターとの打合せ ・地域展開に係る学校訪問③ |
| 令和7年8月 | <ul style="list-style-type: none"> ・実証事業体操部顧問向け説明会 ・コーディネーターとの打合せ |
| 令和7年9月 | <ul style="list-style-type: none"> ・実証事業（体操競技）開始 ・市スポーツ協会との打合せ |
| 令和7年10月 | <ul style="list-style-type: none"> ・実証事業（新体操）開始 ・コーディネーターとの打合せ ・第1回部活動地域移行検討委員会 |
| 令和7年11月 | <ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーターとの打合せ |
| 令和7年12月 | <ul style="list-style-type: none"> ・市スポーツ協会との打合せ ・地域展開に係る学校訪問④ ・コーディネーターとの打合せ |
| 令和8年1月 | <ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーターとの打合せ ・人材リスト趣旨等説明（市PTA連合会、公民館長会議、市スポーツ協会理事会） |
| 令和8年2月 | <ul style="list-style-type: none"> ・第2回部活動地域移行検討委員会 ・人材リスト趣旨長説明（スポーツ推進委員会議） |
| 令和8年3月 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域展開に係る学校訪問⑤ |

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		9クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）	9クラブ（17部活動）	
	B：部活動にはない種目等、新規の地域クラブ活動数	0クラブ	
全体の指導者数	45人	全体の運営スタッフ数	2人

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数 (平日・休日)	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
境軟式野球クラブ	市町村運営型	軟式野球	・平日 0回 ・休日 21回	午前中	1年 8人 2年 12人 3年 10人	4月～1月	6人	2人 (内、兼務2人)	300円 /年額	中体連 部活動
境バスケットボールクラブ	市町村運営型	バスケットボール	・平日 0回 ・休日 9回	午前中	1年 22人 2年 21人 3年 26人	4月～1月	4人	2人 (内、兼務2人)	300円 /年額	中体連 部活動
境サッカークラブ	市町村運営型	サッカー	・平日 0回 ・休日 30回	午前中	1年 11人 2年 13人 3年 10人	4月～1月	4人	2人 (内、兼務2人)	300円 /年額	中体連 部活動

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 本市の部活動地域展開に協力をいただいている伊勢崎西部スポーツクラブが、10月から12月にかけて中学生に多様なスポーツの機会を提供することを目的とした「Weekend マルチスポーツ challenge！」を実施した。

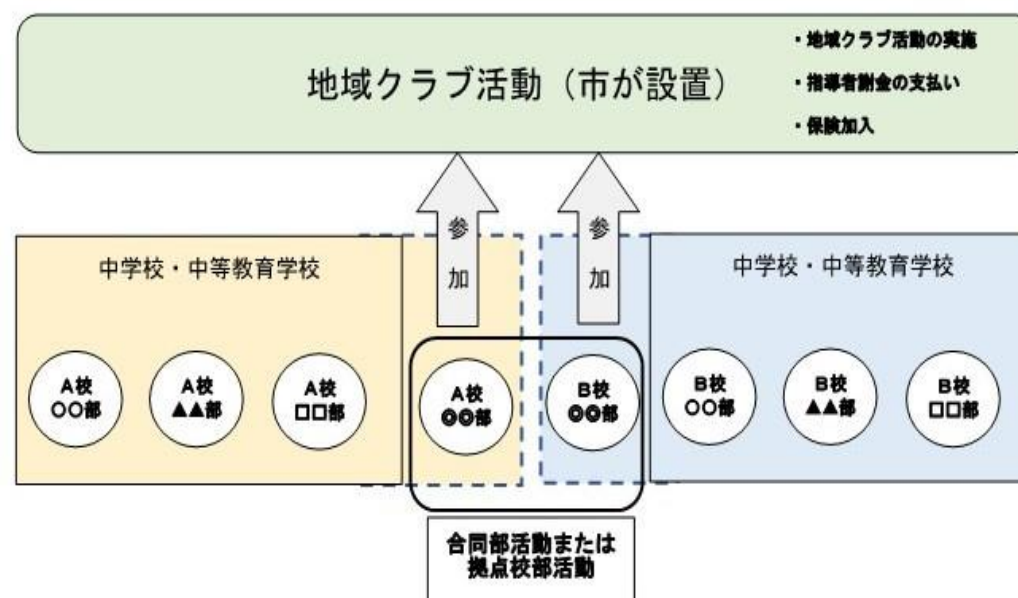
2.実証内容と成果

主な取組例

●境サッカークラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	サッカー
運営団体名	境サッカークラブ
期間と日数	月3回程度
指導者の主な属性	教員
活動場所	境地区中学校校庭
主な移動手段	自家用車、自転車
1人あたりの参加会費等(年額)	300円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



●指導者や運営スタッフ等の役割分担等

●自治体

役割：指導者への謝金の支払い、傷害保険の加入手続き、参加費の徴収を行う

●主任指導者 1名

役割：活動日の設定、指導者の分担等を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



スポーツ庁

取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- 伊勢崎市の中学校等の部活動実施主体を段階的に地域へ移行することにより、学校教育及び部活動を巡る諸課題の解決並びに地域におけるスポーツ及び文化・芸術活動振興を図るため、市独自のコーディネーターの任用した。
- 9つの合同部活動を市が設置した地域クラブに認定し、実証事業を実施した。
- 10月と2月の年2回、部活動地域移行検討委員会を実施し、指導者人材リストや今後の部活動地域展開の在り方について協議した。

取組の成果

- 部活動地域移行コーディネーターが、部活動地域展開に係る企画及び計画を立案し、校長や関係機関との連絡・調整を行ため、以前より部活動地域展開の取組が前進した。
- 昨年度の課題であった専門性の高い指導と安全性が求められる体操競技と新体操について、学校長や伊勢崎市体操協会と調整しながら、新規の取組と行うことができた。
- 部活動地域移行検討委員会を年2回開催し、休日の部活動の段階的な地域展開に向けて、伊勢崎市の構想や取組について協議・検討し、方向性を示すことができた。

今後の取組における課題

- 地域クラブの活動は充実したが、活動場所までの移動に時間がかかったり、送迎をする保護者に負担がかかったりしている。
- 外部の指導者が不足し、実際の指導のほとんどは依然として顧問教員に頼らざるを得ない状況となっている。
- 現在の運動部活動をそのまま、地域クラブに移行するのは厳しい。中学校区をもとに、市内をいくつかのブロックに分ける必要があるが、学校間の距離や地域性を考慮しながら分けをどうしていくか検討が必要である。

課題への対応方針

- 指導者の量的・質的確保
→指導者人材リストの運用を本格化させていく。
指導者への謝礼金等にあてる財源を確保していく。
伊勢崎市スポーツ協会と連携し、指導者研修会を実施する。
- 運営団体の整備
→スポーツ振興課等の市長部局、伊勢崎市スポーツ協会や総合型地域スポーツクラブ等の関係団体とのさらなる連携強化を図っていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

コーディネーターの具体的な動きの実績

- 各中学校の校長と連絡を取り合い、丁寧な情報交換を行い、学校のニーズを踏まえながら、地域クラブ活動に向けた取組を進めることができた。
- 伊勢崎市スポーツ協会と連携し、伊勢崎市中学校「部活動支援」「地域クラブ活動支援」人材リストの作成の進め方や指導者研修会の内容等について具体化することができた。

運営団体・実施主体の運営体制の整備に向けた取組

- 伊勢崎市部活動地域移行検討委員会において、「伊勢崎市モデルの認定地域クラブの方向性（案）」を示した。
- この中で、地域クラブの実施主体は、中学校区をもとに4つの地域クラブを設置し、指導者人材リストにと登録されている指導者が生徒の指導にあたるとした。
- 地域クラブの運営主体については、現段階では未定としているが、今後も運営主体及び実施主体の在り方について協議を進め、検討委員会の委員と共通理解を図っていく。

○伊勢崎市モデルの認定地域クラブの方向性（案）

※ 伊勢崎市を4ブロック化（イメージ図）



資料5

【伊勢崎市モデルの認定地域クラブの方向性】
（部活動地域移行検討委員会資料）

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

- 伊勢崎市スポーツ協会と連携し、伊勢崎市中学校「部活動支援」「地域クラブ活動支援」人材リストを作成した。この人材リストは、指導者の質を保障するため、各連盟・協会等の競技団体や地域の団体からの推薦を受けて登録されるのが特徴である。
- さらに、指導者の質を保障するため、伊勢崎市スポーツ協会と連携し、地元大学の准教授、伊勢崎市教育委員会指導主事等が講師を務め、部活動地域展開の概要、部活動指導方針・生徒への指導、安全管理・事故対応等を研修メニューとした指導者研修会の実施に向け、協議を行った。

取組の成果

- 伊勢崎市中学校「部活動支援」「地域クラブ活動支援」人材リストを作成するにあたり、事務局が地域の関係機関の諸会議において、部活動地域展開の現状や人材リストの概要について説明する機会を設けることで、地域方々の理解を得ながら進めることができた。
- 伊勢崎市スポーツ協会と連携し、指導者研修会の実施時期、会場、対象者、研修内容等について、具体化することができた。

今後の取組における課題

- 当初の予定より、伊勢崎市中学校「部活動支援」「地域クラブ活動支援」人材リストの作成に時間を要し、今年度内の運用ができなかった。
- 指導者研修会を今年度開催することができなかった。
- 今年度、24人の部活動指導員や34人の部活動外部指導者を任用した。現在、市内の中学校には214の運動部活動が設置されている。現在、地域の指導者に部活動を支えていただいているが、今後の部活動の地域展開を見据えた時、指導者の数がまだまだ足りない。

課題への対応方針

- 指導者研修会は、令和8年8月に開催予定である。令和8年度以降についても伊勢崎市スポーツ協会と連携して毎年開催していく。
- 伊勢崎市中学校「部活動支援」「地域クラブ活動支援」人材リストは、群馬県が進めているぐんま指導者・サポーターバンクと連携し、登録者数を増やすとともに、各学校に情報提供し、部活動指導員や部活動外部指導者として任用していく。
- 今後、教職員が地域クラブ活動の指導者として活躍できるよう、兼業兼職について、国が示す手引きや県の示す参考資料も参考にし、条件整備を進めていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

多様な人材の発掘・配置に向けた取組

- 伊勢崎市中学校「部活動支援」「地域クラブ活動支援」人材リストの作成
- ・学校教育課の担当指導主事と部活動地域移行コーディネーターが、伊勢崎市PTA連合会理事会、公民館長会議、伊勢崎市スポーツ協会理事会、伊勢崎市スポーツ推進委員役員会において、部活動地域展開の概要と指導者人材リスト作成の趣旨説明を行った。
- ・伊勢崎市スポーツ協会事務局が、傘下の連盟・協会に人材リストへの登録依頼をし、右のリーフレットを配付した。
- ・人材リストへの登録は利便性を高めるため、二次元コードからformで行うようにした。

地域で輝く指導者の力

伊勢崎市中学校部活動・地域クラブ活動支援人材を募集！




なぜ今、あなたの力が必要なのか？

- 生徒が継続して活動できる環境づくり
 - ・休日を含め、生徒が安定してスポーツや文化活動に継続的に取り組める環境を地域全体でつくるためです
- 地域クラブ活動の指導者の確保
 - ・今後の地域展開につなげるため、活動の受け皿となる地域の人材を発掘し、登録することを目指しています
- 教員の負担軽減と指導の役割分担
 - ・中学校の教員が担ってきた部活動指導を地域のクラブ活動へ展開し、指導を地域の指導者へと移行するためです

あなたに選べる！2つの活躍の形

⑧技術指導スタッフ

【役割】

- ・生徒に対し直接的に技術指導を主にサポート

【求められること】

- ・指導に関わる競技、種目等の競技経験や指導経験を有する方

⑨運営・安全管理スタッフ

【役割】

- ・部活動支援を運営面や安全管理等でサポート

【求められること】

- ・部活動並びに地域クラブ活動の運営や安全管理等の活動を行っていただける方

登録から任用までのステップ

①登録申請

- ・候補者はリーフレット下部の二次元コードから登録フォームにアクセスして申請

②リスト作成・情報提供

- ・教育委員会は提出された情報を集約し、「人材リスト登録者一覧表」を作成
- ・教育委員会は各学校長に一覧表を送付し、情報を提供

③学校からの依頼

- ・各学校長は提供されたリストを確認し、外部指導者等として任用したい候補者がいた場合、教育委員会と相談し、候補者に連絡

④面談・条件確認

- ・学校長からの依頼に基づき、候補者は校長と面談を実施し、依頼内容や勤務条件等を確認

⑤任用決定・協力開始

- ・双方が納得したうえで、「部活動支援」「地域クラブ活動支援」への協力を依頼
- ・該当者へ任用通知を行う

登録する情報と留意点

【登録情報】

- ☐希望種目
- ☐希望地区・学校
- ☐指導可能日時
- ☐希望スタッフ
- ☐指導者資格、指導経験、競技経験等の有無 等

【留意点】

- 支援人材への登録には、本市の部活動指導方針を十分理解し、活動にあたり学校と協力して取り組む姿勢が必要です
- ※この指導方針は、伊勢崎市部活動ガイドラインでご確認ください（右の二次元コード）
- リストへの登録は指導者候補としての情報提供であり、任用を保证するものではありません
- 詳細な勤務条件や報酬については、任用前の面談時に提示し、確認します

ご登録はこちらから



<https://docs.google.com/forms/d/1TS0SvDwF-0Qx2tHfGx10NsuyA2hX0E0T1Q4orFL00/edit>

※人材リストに登録いただいた方には、(一財)伊勢崎市スポーツ協会主催のジュニアスポーツ指導者研修会を受講していただきます。

問合せ先 伊勢崎市教育委員会学校教育課 住所 伊勢崎市今泉町二丁目410
電話番号 0270-27-2790

【伊勢崎市中学校「部活動支援」「地域クラブ活動支援」人材リストリーフレット】

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- 伊勢崎市部活動地域移行検討委員会を10月と2月の年2回実施した。10月の検討委員会では、これまでの行ってきた地域展開に係る取組や最新の国の動向について報告した。また、指導者人材リストの進め方と現在取組んでいる地域クラブ活動について、各委員に協議していただき、示唆に富んだ助言をいただいた。2月の検討委員会では、今年度の取組を報告し、協議では長期的な市の方向性と来年度の取組について各委員から意見をいただいた。
- 5月、7月、12月、3月に学校教育課担当指導主事と部活動地域移行コーディネーターが各中学校を訪問し、校長と情報交換会の実施した。

取組の成果

- 伊勢崎市スポーツ協会や総合型地域スポーツクラブ、伊勢崎市スポーツ少年団、民間クラブ、伊勢崎市PTA連合会、伊勢崎市中学校長会等の各種団体の代表からなる部活動地域移行検討委員会において、部活動地域展開の在り方等について協議し、共通理解を深めることができた。
- 各中学校の校長と丁寧な情報交換を行うことで、学校のニーズを踏まえながら、部員数が少なく単独では活動ができない部活動や、安全性が求められる部活動等において、複数校による合同部活動にすることにより活動の充実を図ることができた。

今後の取組における課題

- 合同部活動を市が設置する地域クラブに認定する形で活動してきたため、活動場所がほぼ学校の体育館や校庭、武道館であった。そのため、市有のスポーツ施設を練習場所として利用することはなかった。
- 指導の補助を目的に、地域の大学と連携し、指導に当たる学生を派遣してもらう取組については、大学側との日程調整がつかず実施できなかった。市内にはスポーツに力を入れている大学があるので、魅力ある地域資源を有効活用できるよう努めていきたい。

課題への対応方針

- 地域クラブ活動によっては、人数が多くなり、学校施設では手狭であるという意見があることから、来年度は、市有のスポーツ施設を練習場所として利用できるよう、スポーツ振興課の理解と協力を得ていきたい。
- 地域の大学の学生から、中学校の部活動や地域クラブ活動のサポートをしたいという声が上がっていることから、伊勢崎市中学校「部活動支援」「地域クラブ活動支援」人材リストへの登録を進めていきたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

- 学校間連携による合同部活動のより一層の推進。



取組の成果

- 昨年度の軟式野球、ソフトボール、バスケットボール、サッカー、柔道に加え、専門性の高い指導と安全性が求められる体操競技と新体操について、合同部活動の取組を開始することができた。



今後の取組における課題

- 参加した生徒からは、他校の生徒と恐竜氏高め合ったり、他校の指導者からアドバイスをもらったりすることで、活動が充実したという意見がある一方、活動場所までの移動に時間がかかったり、送迎をする保護者に負担がかかったりしているという意見もあった。
- 指導者からは、合同での活動となることで、生徒数が多くなり、活動場所が手狭であることや、器具が足りない等の意見があった。

課題への対応方針

- 合同部活動が土台となっているため、活動場所を特定の学校に固定してしまうと、他の学校に移動の負担がかかるため、活動場所を輪番にするなど工夫する必要がある。
- クラブによっては、数校が集まることにより、人数が多くなり、活動場所が狭かったり、一人の活動量が減ったりするなどの課題が生じたため、市民体育館を練習場所として利用できるよう、スポーツ振興課に協力を仰いでいきたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実

取組事項

- 本市の部活動地域展開に深く関わっている総合型地域スポーツクラブ伊勢崎西部スポーツクラブが「Weekend マルチスポーツ challenge！」を実施。

取組の成果

- カヌーやボクシング、ポッチャ、弓道、空手の学校部活動にない5つの種目で実施し、生徒が普段なかなか体験できない多様なスポーツに触れる機会を提供することができた。

今後の取組における課題

- 本事業は、カヌーやボクシング、ポッチャ、弓道、空手等、生徒にとって、普段なかなか体験することができない貴重な機会であった。しかし、周知期間が短かったり、中体連の大会等と重なったりして、参加人数が伸びなかった。今後の部活動地域展開を見据えると、本事業は、地域クラブ活動に繋がる可能性がある。来年度も本事業が継続するならば、事前の周知方法や日程調整をする等して、多くの生徒が参加し、豊かな体験に繋げていきたい。

「Weekend マルチスポーツ challenge！」チラシ

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

取組事項

- 地域クラブに参加する生徒及び指導者の傷害保険料について、指導者は全額（1人1,850円）、生徒は保険料の一部（1人500円）を市の予算で負担をした。
- 地域クラブ活動に参加をする生徒からは、傷害保険料の一部を参加費（1人300円）として徴収した。

取組の成果

指導者と参加生徒の傷害保険料を市の予算で賄うことができた。

今後の取組における課題

今後、地域クラブ活動を持続可能な運営にしていくための必要経費に対して、参加費の割合をいかにしていくか検討していく必要がある。

課題への対応方針

部活動地域移行検討委員会で協議を進めるとともに、他市町村の先行事例を調査研究していく。

●収入

項目	費用	割合
公費	1,420,450円	94%
事務局運営費	90,300円	6%
合計	1,510,750円	—

収支バランス

- 収入および支出の内訳
 - ・ 収入における公費の割合が大きい。
 - ・ 支出における諸謝金（指導者）の割合が大きい。
- 収支のバランスを取るために検討している今後の運営体制
 - ・ 学校施設、備品及び消耗品を継続的に使用していく。
 - ・ 参加費を増額していく。
 - ・ 地元企業から寄付等を募る。
- 困窮世帯への支援内容
 - ・ 地域クラブへの参加費の補助
 - ・ 送迎支援

●支出

項目	費用	割合
地域クラブ活動費	1,510,750円	100%
諸謝金（指導者）	1,180,800円	78.2%
会場使用料	0円	—
消耗品費	0円	—
印刷製本費	0円	—
携帯電話レンタル料	0円	—
雑役務	1,000円	0.1%
生徒保険料	240,800円	15.9%
指導者保険料	88,150円	5.8%
事務局運営費	0円	0%
謝金	0円	—
会場使用料	0円	—
スポーツ教室開催費	0円	—
保険料	0円	—
人件費	0円	—
交通費	0円	—
印刷製本費	0円	—
消耗品費	0円	—
備品購入	0円	—
通信運搬費	0円	—
修繕料	0円	—
振込手数料	0円	—
一般管理費	0円	—
消費税相当額	0円	—
合計	1,510,750円	—

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

地域スポーツクラブ活動のために学校施設を使用する場合の優先利用の仕組みを検討する。

取組の成果

- ・ 本年度の全地域クラブ活動の100%を学校施設を利用して実施した。
- ・ 学校施設を利用することにより、施設利用費を0に抑えることができた。

今後の取組における課題

今後、地域クラブ活動を持続可能な運営にしていくための必要経費に対して、参加費の割合をいかにしていくか検討していく必要がある。

課題への対応方針

体育館等の入り口付近にキーボックスを設置したり、スマートロックを導入する等、施設面の改修を検討していく。

学校施設利用上の負担軽減に向けた取組

体操競技クラブでは、体育館の入り口にキーボックスを設置し、活動日に自校の指導者が不在でも他校の指導者に鍵の受け渡しを可能にした。



2.実証内容と成果①

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

学校間連携による合同部活動を推進し、地域との関係を深め、部活動地域展開に向けて取組を進めてきた。昨年度のクラブ加え、今年度は、体操、新体操で新たに3つのクラブを加え取組を拡充することができた。その中で、地域スポーツクラブ活動体制整備事業を活用した実証事業を実施したことで、指導者への謝金の支払い、スポーツ安全保険への加入、自己負担金の徴収システム等、地域スポーツクラブ運営に必要なノウハウを蓄積することができた。また、部活動地域展開を進めていくうえで大きな課題である指導者の確保に向けて、伊勢崎市中学校「部活動支援」「地域クラブ活動支援」人材リストの作成に着手することができた。中学生の指導にふさわしい方が人材リストに登録していただけるよう、学校教育課の担当指導主事と部活動地域移行コーディネーターが、伊勢崎市PTA連合会理事会、伊勢崎市スポーツ協会理事会、公民館長会議、伊勢崎市スポーツ推進委員役員会において、部活動地域展開の現状や人材リストの趣旨を説明し、地域の方々の理解を得ながら取組を進めることができた。

●成果の評価

- 昨年度の5競技6クラブに、体操2クラブ、新体操1クラブを加え、地域クラブ活動を拡充することができた。
- 複数の顧問や地域の指導者が指導に携わるため、顧問（教員）が休日の指導に携わらない日を作ることができ、ある程度負担を軽減することができた。
- 生徒にとっては、他校との交流や多人数での練習により充実した活動となった。また、他校のより専門性の高い指導者から指導を受けることができ満足感につながった。
- 人材リストを作成するにあたり、事務局が地域の関係機関の諸会議において、部活動地域展開の現状や人材リストの趣旨について説明する機会を設けることで、地域の方々の理解を得ながら進めることができた。

●今後に向けて

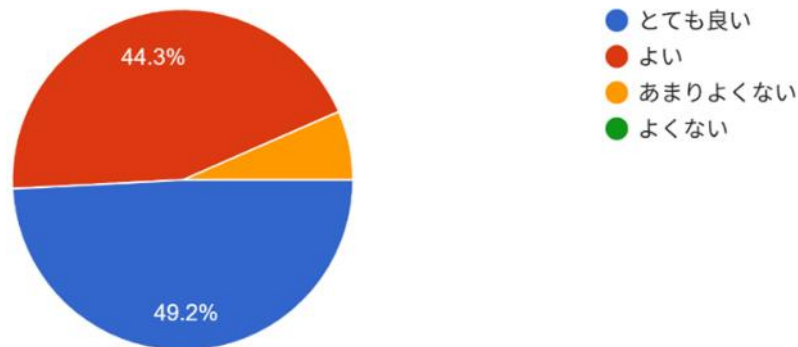
- 来年度は、今年度実施した9クラブの取組に新たに3クラブを加え、休日の地域スポーツクラブ活動を拡充していく。
- 専門性の高い指導者の確保のため、群馬県が運営するぐんま部活動・地域クラブ活動指導者・サポーターバンクの活用に加え、市独自の伊勢崎市中学校「部活動支援」「地域クラブ活動支援」人材リストを本格稼働させていく。
- 指導者の質を確保するため、伊勢崎市スポーツ協会と連携し、指導者研修会を毎年実施していく。

2.実証内容と成果②

アンケート結果・参加者/関係者の声

●アンケート結果（生徒）

Q.「地域スポーツクラブ活動」において、地域の指導者が指導することについて、あてはまる気持ちと理由を教えてください。



Q.今後の「学校部活動」と「地域スポーツクラブ活動」の実施について、あてはまる気持ちを教えてください



●参加者/関係者の声

参加者/生徒①

普段教わることのない先生から教えてもらうことで新しい気づきがあった。

参加者/生徒②

人数が確保できて、意見や練習メニューの幅が増えた。

参加者/生徒③

お互いに高め合いながら練習することができた。

参加者/生徒④

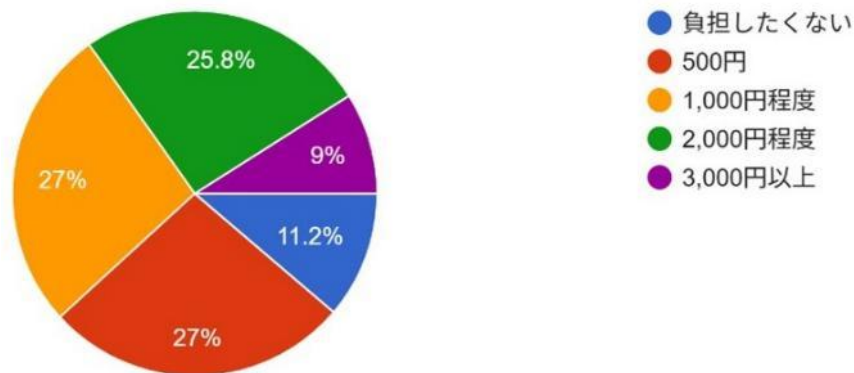
地域展開をしてしまうことにより、自分の学校での部活がなくなってしまうのではないかと不安。

2.実証内容と成果②

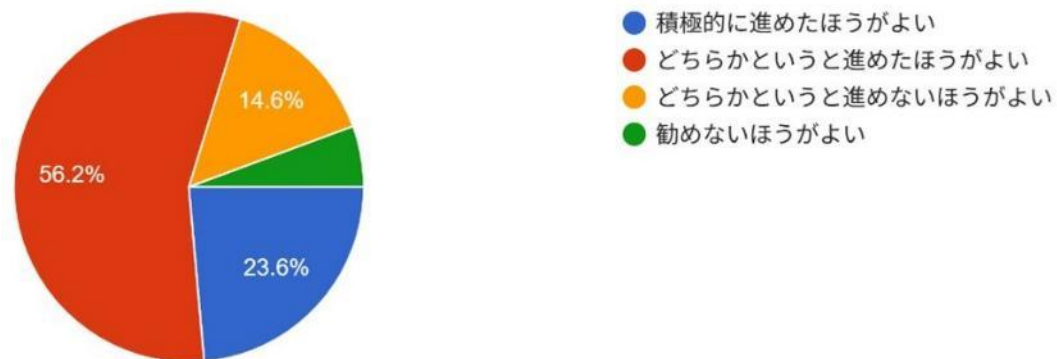
アンケート結果・参加者/関係者の声

●アンケート結果（保護者）

Q.「地域スポーツクラブ活動」の費用の負担（指導者謝金や会場使用料、生徒・指導者傷害保険等）について、月あたりいくらまでなら、家庭で負担してもよいと感じていますか。



Q.今後「地域スポーツクラブ活動」が進むことについて、あてはまる気持ちを教えてください。



●参加者/関係者の声

参加者/保護者①

保護者の金銭的、時間的な負担が増えること、参加できない場合、子供の希望に添えずに可哀想な思いさせてしまうかもしれない心配

参加者/保護者②

学校の先生の中にも部活の指導を続けたい先生もいると思う。その対応も検討して貰えたら良いと思う。

参加者/保護者③

地域クラブ活動によって、先生の負担が軽減され、無理のない形で子どもたちを支えられる体制になるといいと思う。

参加者/保護者④

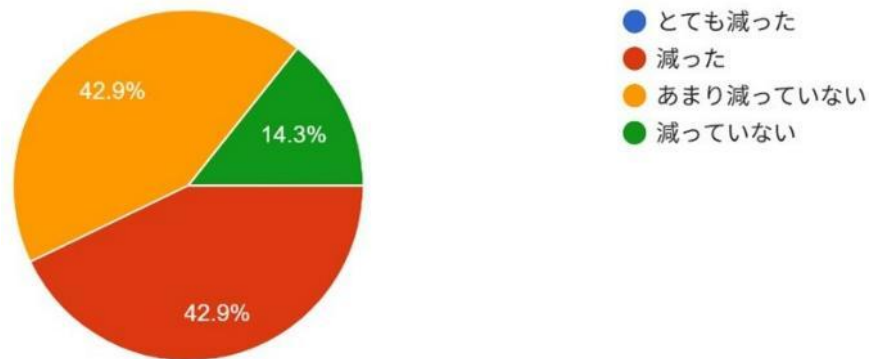
種目や地域により差があると思うが、現在の部活動の現状や課題があれば情報発信して欲しい。

2.実証内容と成果②

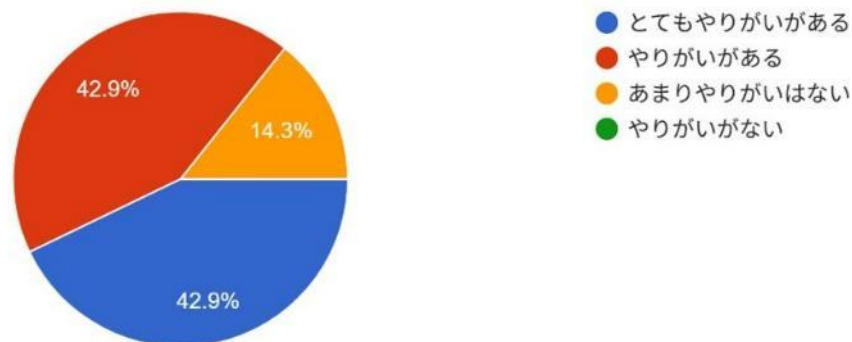
アンケート結果・参加者/関係者の声

●アンケート結果（顧問・地域指導者）

Q.「地域スポーツクラブ活動」において、地域の指導者が指導することで、部活動の心身の負担感は、軽減されましたか。



Q.今後の「学校部活動」と「地域スポーツクラブ活動」の実施について、あてはまる気持ちを教えてください



●参加者/関係者の声

参加者/指導者①

充実した技術指導や負担軽減のためにもぜひ推進していただきたいが、移行するとなると怪我やトラブル責任の所在や大会運営等多くの課題があるよう感じる。

参加者/指導者②

交代しながら指導ができたので、負担は少し減ったと思う。
地域クラブ活動になることで、部員数が増え、活気が出た。
やりたいと感じている生徒の活動場所が確保されている。

参加者/地域指導者(1)

生徒達が充実した練習ができる設備等、良い環境が欲しい。生徒が学校部活動よりメリットが大きいと感じられることが一番大切だと思う。

参加者/地域指導者②

「生涯スポーツを楽しむ基礎作りの場所」を残す方法を行政と共に考えて頂きたい。

2.実証内容と成果③

参考資料



【軟式野球 練習の様子】



【サッカー 練習の様子】



【ソフトボール 練習の様子】



【柔道 練習の様子】

2.実証内容と成果③

参考資料



【サッカー 試合の様子】



【新体操 練習の様子】



【体操競技 練習の様子】



【体操競技 練習の様子】

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和4年

伊勢崎市部活動地域移行検討委員会設置、検討開始

モデル事業の実施

令和6年

学校現場との調整

生徒、保護者への説明

令和7年

地域クラブ活動の開始

地域クラブ活動の拡大

●ステークホルダー

学校、一般財団法人伊勢崎市スポーツ協会、特定非営利活動法人伊勢崎西部スポーツクラブ、競技団体、伊勢崎市PTA連合会、伊勢崎市佐波郡中学校体育連盟、市長部局、市教育委員会、伊勢崎市部活動地域移行コーディネーター

●経過

令和4年度より伊勢崎市部活動地域移行検討委員会を設置し、幅広い視点から部活動地域移行の方向性、地域や関係団体との連携の在り方について意見交換を行い、生徒の活動の受け皿となる団体、指導者の確保、けがの保障、費用負担の問題等、本市の地域移行に係る課題を明らかにしてきた。令和5年度は境地区の中学校等で軟式野球を対象に、上武大学硬式野球部と連携したモデル事業を実施した。令和6年度はモデル事業の成果と課題を踏まえ、境地区を中心にサッカーやバスケットボール等でも複数校による合同部活動で市が運営する地域スポーツクラブ活動に参加する取組を開始した。また、合同での部活動を推進していく目的や進め方についてリーフレットを作成し、教職員や児童生徒、保護者に周知を図った。令和7年度は、新たに体操競技と新体操を加え、地域クラブ活動の拡大を図るとともに、指導者確保のため、伊勢崎市中学校「部活動支援」「地域クラブ活動支援」指導者人材リストの作成に着手した。

●実施にあたって生じた課題

休日の地域スポーツクラブ活動は、複数の顧問や地域の指導者が指導に携わるので、顧問（教員）が休日の指導に携わらない日を作ることができ、負担を軽減することができたが、休日の指導に顧問（教員）が全く携わらない形にはなっていない。

●実施内容、工夫した点 等

専門性の高い指導と安全面が求められる体操競技と新体操について、夏季休業中に関係する顧問と地域指導者に地域クラブ活動の趣旨等を説明し、共通理解を図ったうえで、9月より地域スポーツクラブ活動に参加する取組を開始した。

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

部活動地域移行検討委員会において、来年度から令和13年度までの改革実行期間内のできる限り早い段階に、全ての学校の部活動において、休日の部活動の地域展開を目指していくことが確認された。

右図は、伊勢崎市モデルの認定地域クラブ方向性を示したものである。伊勢崎市を中学校区でいくつかのブロックに分け、地域クラブ活動を作る。そこに、人材リストに登録された指導者が中学生の指導にあたる。現在は、運営主体や実施主体は明確になっていないが、協議を進めながら具体的な姿を作っていく。

最重要課題である指導者の確保のためには、来年度から、伊勢崎市中学校「部活動支援」「地域クラブ活動支援」指導者人材リストを本格運用していく。また、希望する教員が地域クラブ活動の指導者として、指導を継続できる環境を整備していく。

現在、伊勢崎市の全中学校で、241の運動部活動が設置されており、その数の多さが、部活動の地域展開を困難にさせている原因となっている。今後の生徒数の減少を見据え、各中学校の規模に見合った部活動数にするため、校長会と協議を進めていく。さらに、部活動の総量を減らし、スリム化を図るため、土日の部活動の実施回数等についても検討を進めていく。

○伊勢崎市モデルの認定地域クラブの方向性（案）

※ 伊勢崎市を4ブロック化（イメージ図）



令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

群馬県沼田市

自治体名：群馬県沼田市

担当課名：沼田市教育委員会学校教育課

電話番号：0278-23-2111

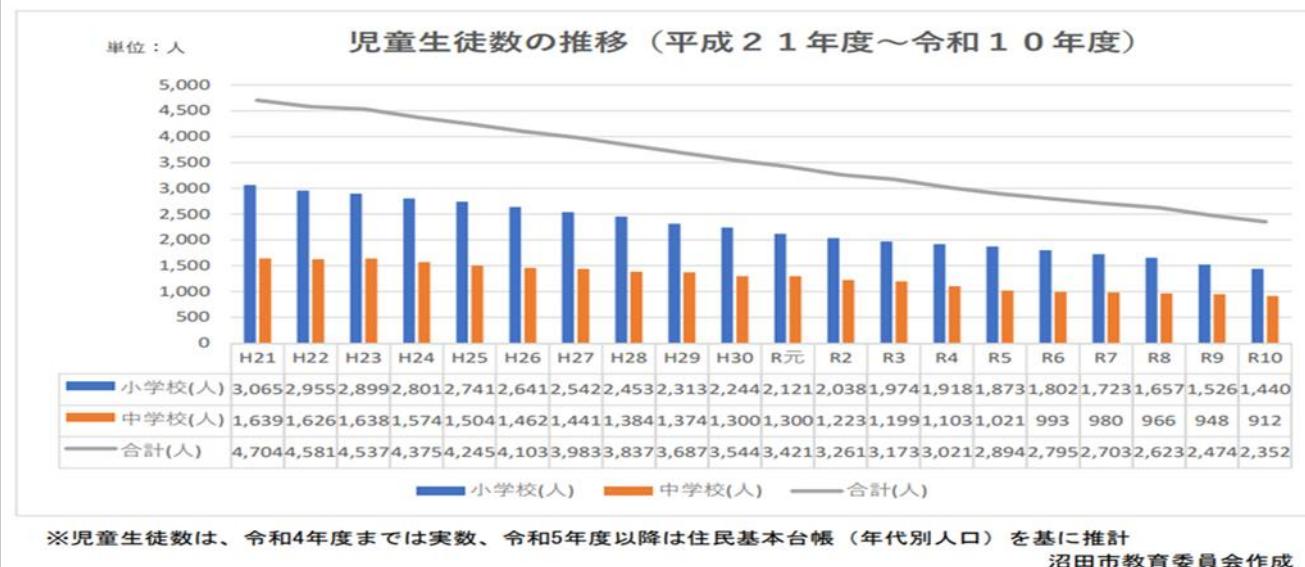
1.自治体の基本情報

基本情報

面積	443.46km ²
人口	42,481人 (令和8年2月末現在)
公立中学校数	9校
公立中学校生徒数	973人 (令和8年2月末現在)
部活動数 (運動部活動のみ)	74部活
地域クラブ活動数	9クラブ
市区町村の協議 会・検討会議等 の設置状況	設置済
市区町村の推進計 画・ガイドライン等の 策定状況	策定済

地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

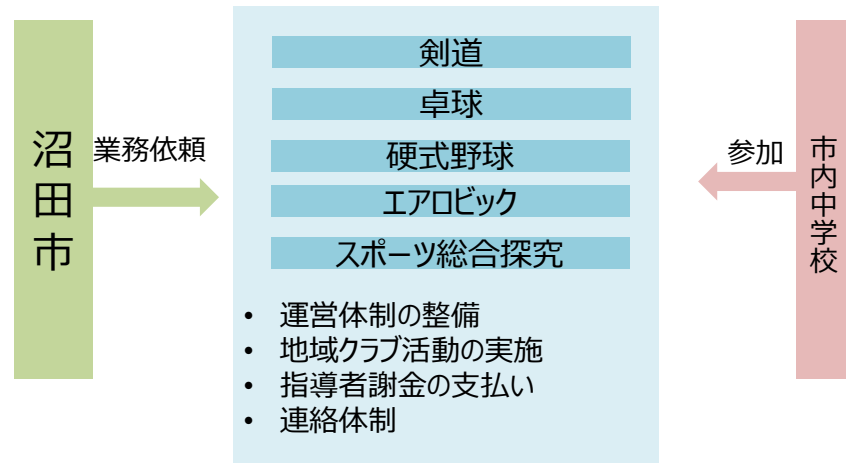
- 現在、本市の運動部活動は基本的には、各中学校ごとに活動を行っており、合計74の部活動が活動している。部活動ごとに人数減少が進んでいるため、複数校で合同チームを組んで大会へ参加したり、休日に一緒に練習をしたりしている競技部もある。そのため、これまで通りの体制で活動することが難しくなっている現状がある。
- 令和7年度は、実証事業へ4団体5競技が参加し、主として休日に活動している。しかし、参加者が集まらない現状もあり、なかなかイメージする活動ができないとの報告も受けている。地域クラブ活動の取組については、市内中学校への周知方法を工夫したり、近隣町村との連携も視野に入れたりすることが考えられる。また、引き続き、専門的な知識・技能を有する指導者の確保や、継続して指導に従事できる仕組みづくりを行うことが求められる。
- 来年度は、市内の中学生が多様なスポーツや文化芸術活動に親しめるよう、学校やスポーツ・文化芸術団体、教育委員会関係者が連携し、「沼田スポカルDAY」を実施予定である。具体的には、令和8年度の8月・10月・11月の最終土曜日と日曜日は、学校の部活動を行わず、地域が受け皿となる活動の場を提供できるようにする取組である。実施に向けて各関係団体と連携・協力するとともに、取組の成果と課題を分析しながら、地域展開を推進していく。



2.実証内容と成果

運営体制・役割

●市区町村における推進体制図



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・学校教育課学校部活動・事務全般担当
- ・生涯学習課地域文化芸術活動担当
- ・スポーツ振興課スポーツクラブ活動の受け皿の拡大、施設担当

◎首長部局

- ・なし

年間の事業スケジュール

- | | |
|---------|---|
| 令和7年4月～ | <ul style="list-style-type: none">・各団体活動内容の周知・各団体の活動実施 |
| 令和7年6月 | <ul style="list-style-type: none">・沼田市地域クラブ活動
推進協議会①
(協議内容)
地域展開の今後の方向性について
推進計画の見直しについて
魅力的な地域展開を進めるために |
| 令和8年2月 | <ul style="list-style-type: none">・沼田市地域クラブ活動
推進協議会②
(協議内容)
沼田市立中学校等部活動地域展開及び地域クラブ活動の推進等に関する計画について
沼田スポカルDAYについて・「沼田スポカルDAY」における
検討会議・令和8年度に向けて各団体との打ち合わせ会議 |
| 令和8年3月 | <ul style="list-style-type: none">・沼田市立中学校等部活動地域展開および地域クラブ活動の推進等に関する計画改定 |

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		5クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）	2クラブ（卓球・剣道）	
	B：部活動にはない種目等、新規の地域クラブ活動数	3クラブ （エアロビック・スポーツ総合探究クラブ・硬式野球）	
全体の指導者数	49人	全体の運営スタッフ数	41人

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数 (平日・休日)	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
うすねニュース ポーツクラブ	総合型地域スポーツクラブ	エアロビック等	・休日月2回	土曜日 午前または午後 1～3時間	沼田市内小 中学生生徒	9月～3月	8人	2人	月会費 無し	その他：地域 クラブ
うすねニュース ポーツクラブ	総合型地域スポーツクラブ	スポーツ総合探究クラブ	・平日16回 ・休日6回	平日：放課後 日：午前	中学校2年生3名、3年生2名	4月～2月	7人	3人 (内、兼務1人)	800円 /年額 (保険)	中体連：部活動（サッカー）
NBA トレジャーズ	総合型スポーツクラブ	硬式野球	・休日12回	9:00～ 12:00	中1…0人 中2…1人 中3…14人	8月～11月	10人	1人	1000円 /年額 (等)	その他：地域 クラブ

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の運営実績

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数 (平日・休日)	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
利根沼田卓球協会	連盟・協会	卓球	・休日9回	10:00～ 16:00	小学生 中学生 高校生 一般	6月・8月 9月・11月 12月・3月	20人	20人	月会費 なし	その他：地域 クラブ
白沢少年少女剣道教室	競技団体	剣道	月16回/週4回 ・平日3回 ・土日1回	19:00～ 21:00	白沢中学校 を中心に特に 制限なし	4月から3月	4人	15人	月会費 500円 (貸与 防具修 理費等)	その他：地域 クラブ

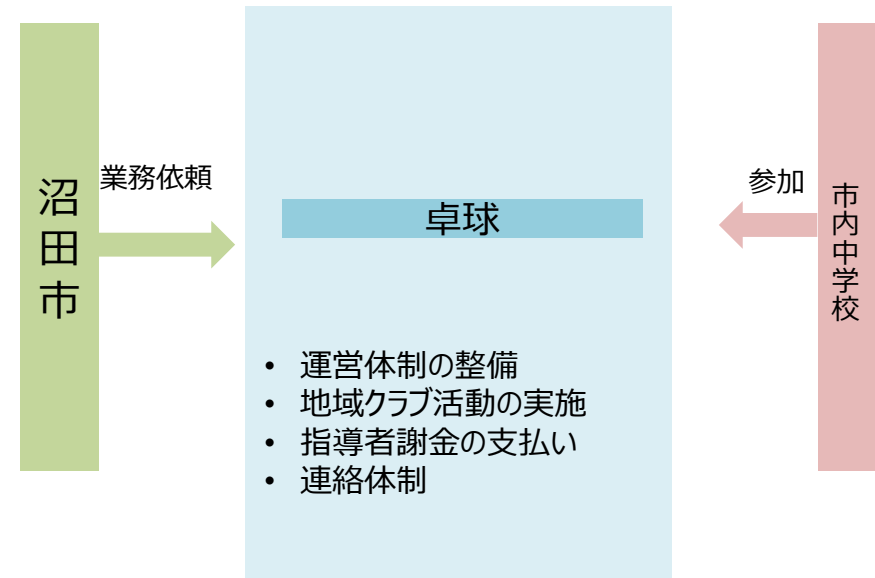
2.実証内容と成果

主な取組例

●利根沼田卓球協会活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	卓球
運営団体名	利根沼田卓球協会
期間と日数	6月・8月・9月・11月・12月・3月
指導者の主な属性	公務員等
活動場所	ZACROSアリーナぬまた（沼田市民体育館）
主な移動手段	保護者送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	なし
1人あたりの保険料	参加者の個人負担

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



●指導者や運営スタッフ等の役割分担等

●統括責任者

役割：活動における管理者として、生徒、保護者との連携を行う

●指導者20名

役割：活動における主任者として、生徒への指導を行う

●運営補助者

役割：活動における連絡、調整、準備等

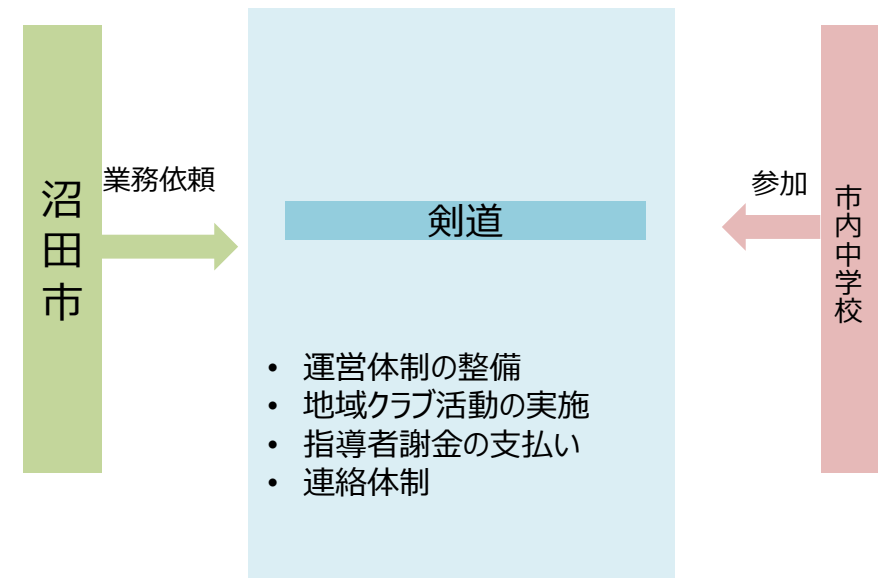
2.実証内容と成果②

主な取組例

●白沢少年少女剣道教室活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	剣道
運営団体名	白沢町体育協会委町剣道部
期間と日数	剣道：月16回程度
指導者の主な属性	公務員・会社員
活動場所	白沢中学校武道館
主な移動手段	保護者送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	剣道：500円（貸与防具修理費）
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



●指導者や運営スタッフ等の役割分担等

●統括責任者

役割：会場の確保や活動全般における管理者として、事務手続き・指導をはじめ、生徒、保護者との連携を行う

●主任指導者3名

役割：活動における主任者として、生徒への指導を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- 沼田市教育委員会学校教育課の部活動地域展開担当者が、うすねニューススポーツクラブ、沼田クラブ、利根沼田卓球協会、白沢少年少女剣道教室と連絡を取り、運営方針や指導者の確保等について連絡・調整を図った。
- 中学生へは各学校を通して参加募集通知を配布したり、市のホームページに活動団体等の情報（活動日・活動場所・活動時間等）を掲載したりして周知した。
- 地域展開の理解を深めるため、地域展開の取組に関するリーフレット（地域展開の基本的な考え方・地域展開に関する取り組みの紹介）等を作成し、学校や保護者に周知するとともに、市のホームページに掲載した。

取組の成果

- 沼田市地域クラブ活動推進協議会を実施し、教育委員会事務局と関係団体とが情報共有を行い、共通理解を図ることができた。
- 今年度で2年目となるが、昨年度に続き、平日や休日に活動を行っており、子供たちの活動機会の確保につなげることができた。また、部活動の地域展開は、世代を超え、子供から大人まで、一緒になって取り組めるよい機会となっている。徐々に、他の団体や文化面でも地域展開の動きが出てきている。

今後の取組における課題

- 関係部署や団体との連携を図り、定期的な連絡協議会の設置や連携体制の構築や情報交換に努めるとともに、地域展開の趣旨を学校・地域・子供・保護者に深く理解してもらうため、説明会の開催や・SNSを活用した積極的な周知活動を展開していく必要がある。
- 対象を中学生に限らず、小学生から高校生、さらには成人やシニア層まで幅広い世代で活動できる環境を整える必要がある。これにより、地域住民が指導者として指導者やサポーターとしてかわる好循環を生み出し、指導者不足の解消や平日の活動の実現、持続可能な地域展開が促進されると感じる。

課題への対応方針

- 沼田市地域クラブ活動推進協議会や、これまでに実施した関係者会議や座談会等、関係者が参集できる機会を計画していくことで、関係部署や団体と連携を図ったり、情報交換を行ったりできるようにする。
- フライヤーを作成したり、市のホームページで周知したりする等して、地域展開の趣旨や取組、地域クラブの活動内容等を学校・地域・子供・保護者に知ってもらえるように、継続して理解・啓発活動を行っていく。
- 中学生だけでなく、幅広い世代が活動ができるようにしながら、地域展開が促進されることで、関わる人々の人間的な成長と地域の活性化を目指していきたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

- うすねニュースポーツクラブ、沼田クラブ、利根沼田卓球協会、白沢少年少女剣道教室については、これまでも子供たちの指導に携わっていた指導者がいたため、その方々に市の地域展開の取組について、理解・協力していただき、必要に応じて各団体ごとに指導者の人数を増やしたり、講師を招いたりしながら活動を行った。
- 来年度の「沼田スポカルDAY」の取組に向けて、各関係団体と協議・検討会議を実施した。

取組の成果

- 実証事業の2年目となり、前年度の課題を踏まえたより実践的な地域展開が進んだ。専門性の高い指導体制が確保され、子供たちの習熟度や体力に応じた活動内容の充実を図ることができた。実施日や回数の検討を重ねつつ、各団体ごとに特色ある地域展開の取組が大きく広がり、子供たちが身近にスポーツに親しめる環境が整いつつある。
- 少しずつではあるが、実証事業以外の他団体（種目）においても、地域展開の広がりが見られる。既存のスポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブ等において、指導体制の工夫や受け入れ枠の拡大など、子供たちのニーズに応じた取組が進められており、地域全体の受け皿づくりが着実に進んでいる。

今後の取組における課題

- これまでも地域展開の周知活動を行ってきたが、活動団体の受け皿が少なかったり、指導者の確保が難しい現実がある。今後も部活動の地域展開の推進にむけて、理解・啓発や協力を働きかける必要がある。また指導者の確保だけでなく、指導者の育成も必要であり、クラブ活動の維持・運営に必要なコスト、指導者への謝金など、公的資金や受益者負担等の適切なバランスの確保についても検討が必要である。

課題への対応方針

- 活動内容の質的な向上が図られるよう、国の総合的なガイドラインが示す
認定地域クラブ活動指導者認定制度の考え方を踏まえ、地域の多様な人材等から、子供・保護者から信頼される指導者を確保・育成していく。
- 県が運営する「ぐんま部活動・地域クラブ活動指導者・サポーターバンク」を
参考に指導者の発掘・把握に努める。
- 来年度は、8月・10月・11月の3ヶ月に限り、最終土日は学校の部活動を行わず、地域の団体を受け皿とした「沼田スポカルDAY」を実施できるように、各関係団体と連携・協力していく。
- 部活動の地域展開により実施される「地域クラブ活動」について、国のガイドラインにより示す認定要件および認定手続等に基づき、市において認定を行う仕組みを構築する予定である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- うすねニュースポーツクラブ、沼田クラブ、利根沼田卓球協会、白沢少年少女剣道教室といった関係団体と、市教育委員会（学校教育課・スポーツ振興課・生涯学習課）で連絡調整を図り、指導者の確保や施設の利用、実施回数、児童生徒保護者への周知等について、確認や協力をしながら事業を実施した。
- 沼田市地域クラブ活動推進協議会を年2回開催し、市の地域展開の取組の内容を共有したり、今後の方向性について協議したりした。

取組の成果

- 各関係団体には、基本的に市内全域の児童や生徒を対象として活動することで、スポーツ活動に取り組む機会の場を増やしたり、学校部活動にないスポーツ等に親しんだりすることができる環境整備を整えることができた。
- 利根沼田卓球協会や白沢少年少女剣道教室の取組は、多世代交流の場となっている。
- 沼田市地域クラブ活動推進協議会を実施し、令和8年度以降の「沼田市中学校等部活動地域展開および地域クラブ活動の推進等に関する計画」について、内容を検討することができた。

今後の取組における課題

- これまでの活動実績を基盤として継続的な地域展開を推進するにあたり、多様化する地域展開の課題に向け、より多くの活動の受け皿を拡充していくための具体的な検討を進める。
- 関係団体との定期的な情報交換や連携・協力をさらに密にすることで、実効性の高い事業内容の構築と、地域に根差した実践的な取組の展開を両輪で推進していく。

課題への対応方針

- 令和7年度までの取組から成果や課題を明確にしていくとともに、沼田市地域クラブ活動推進協議会や、これまでに実施した関係者会議や座談会等、関係者が参集できる機会を計画していくことで、関係部署や団体と連携を図ったり、情報交換を行ったりする。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名エ：面的・広域的な取組

取組事項

- 利根沼田卓球協会は小学生から一般、白沢少年少女剣道教室は未就学児から、エアロビックは小学生から、NBAトレジャーズは利根沼田の中学生を対象に受け入れており、実施校区に限らず市内全域の子供を受け入れた活動を行っている。
- 市内の児童生徒だけでなく、近隣の町村も対象として地域クラブ活動を展開したり、受け入れを行ったりすることが検討にあがったが、その取組については現状として進められていない。

取組の成果

- 白沢剣道教室や利根沼田卓球協会の取組をはじめ、各実施団体の方針により、市内全体から幅広い世代の参加者を受け入れる体制が構築されている。
- 中学生のみならず、小学生や高校生、一般成人に至るまで、地域の多様な世代がスポーツを通じて一堂に会し、日常的な多世代交流の活性化を生み出す場となっている。

今後の取組における課題

- 今後、地域展開をさらに面的・広域的に進めていくためには、本市のみの取組にとどまらず、近隣の町村（利根沼田圏域）と緊密な情報共有を図るネットワークの構築が不可欠である。特に、近隣町村からの生徒の受け入れ、それに伴う指導者の確保、適正配置、運営費用の負担割合、安全管理や保険の適用、移動手段の確保といった広域連携特有の課題について、各自治体の担当者や関係団体の定期的な協議や具体的な検討が必要である。

課題への対応方針

- 面的・広域的な取組を進めていくために、今後はまず、近隣町村の教育委員会やスポーツ主管課に対して現状の課題を共有し、情報交換を行うための初期的なアプローチが必要になると考えている。その上で、実務者レベルでの連絡協議会といった『意見交換』の場を段階的に立ち上げ、指導者の確保、各自治体における費用負担の在り方等について、具体的な対応策を多角的に検討・協議していく必要があると考えている。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名オ：内容の充実

取組事項

- 令和6年度から、うすねニュースポーツクラブ、沼田クラブ、利根沼田卓球協会、白沢少年少女剣道教室は活動を実施してきた経緯があり、そのときの課題を解決しながら実施することで、内容の充実を図るよう努めた。
- 「沼田スポカルDAY」の取組に向けて、関係者と協議・検討会議を実施した。
- うすねニュースポーツクラブの活動では、地域展開だけでなく中学校と連携をし、体育の授業でエアロビックダンスを実施した。実証事業の取組としても、休日に地域のイベントとして開催した。

取組の成果

- 卓球は競技の特性上、中学生に限らず、小学生、高校生、大人まで幅広い層の多世代交流の取組となっている。
- 総合型地域スポーツクラブが中学校と連携しながら、授業等を実施できたことで、地域展開の取組を進める上での啓発活動につながった。
- 「沼田スポカルDAY」に向けて検討会議を開いたことにより、各競技団体や学校関係者が部活動の地域展開に対して共通理解を図り、今後の取組に対して、目的を共有することができた。

今後の取組における課題

- 中学校の休日部活動は土曜日に実施されることが多い。日曜日に休むという習慣が付いているためか、日程が重複しない日曜日を中心に活動している団体においては、参加者が伸び悩んでいる一面もある。日曜日に活動するメリットの周知や、参加しやすい環境づくりへのアプローチが必要である。
- 今後、地域展開を行う競技団体が増えてくると、市民体育館等活動場所や利用時間の集中という問題が懸念される。各団体が円滑に活動できるように、関係者間での利用調整ルールの策定や受け皿となる施設の確保に向けた仕組みづくりが課題である。

課題への対応方針

- 少子化や学校の統合が進む中、子供たちの多様化するスポーツ・文化芸術ニーズ等を考慮しながらも、地域のスポーツ・文化芸術活動全体を活性化させる取組が必要であるため、国や県が推進する部活動改革の取組を注視しつつ、地域全体で生涯学習の一環として親しまれるスポーツ・文化芸術活動へと広げられるように、学校・家庭・地域とが連携協働していく必要がある。
- 今後は、実証事業等の成果を生かしつつ、これまでに生じた「日曜日における参加率の伸び悩み」や「活動場所の重複」という具体的な課題への対応を強化し、持続可能な地域クラブ活動を展開していく必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名カ：参加費用負担の支援等

取組事項

- 要保護及び準要保護対象の児童生徒は、市全体の児童生徒数の約7%を占めており、経済的な理由によって児童生徒の活動機会に格差が生じないようにすることが課題となっている。今年度、地域展開を進める関係団体から、困窮世帯の参加の報告はなかった。市としては、これらの世帯の参加費等における負担軽減を図るための支援費確保に向け、何ができるかを引き続き研究課題として、今後の検討を進めていく。

取組の成果

- 関係団体との連携を通じて、市内全体の約7%を占める要保護及び準要保護対象の児童生徒に対する情報共有や実態把握には至らなかった。今年度は困窮世帯の直接的な参加には至らなかったものの、支援費の確保に向けた基盤づくりを進める等、今後の受け入れ態勢を整えることが少なからずできたのではないかと捉えている。今後は、不参加の要因分析や効果的な周知方法についてさらに研究を深め、次年度以降の実効性のある支援に繋げていく。

今後の取組における課題

- 今年度は、関係団体から困窮世帯の参加報告がなかったことから、「支援を必要とする世帯への情報が十分届いていない可能性」や「参加費用負担が心理的・経済的なハードルになっている可能性」が考えられる。今後は、学校を通じた効果的な案内や関係部局との連携等を模索するとともに、関係団体と情報共有を行い、潜在的なニーズの把握に努める必要がある。また、支援費用の確保に向けた研究を進め、参加費用負担軽減に向けた実効性のある助成制度や運用の仕組みを構築していくことも必要である。

課題への対応方針

- 今年度の活動では、困窮世帯の参加の報告はなかったものの、要保護・準要保護世帯をはじめとする困窮世帯の児童生徒への支援については、今後も事業を継続して実施しながら支援の在り方を慎重に研究を進めていく必要がある。本市としては、令和8年度においても支援費として予算を継続して確保している。現時点では、具体的な制度設計や運用の段階には至っていないが、確保した予算の有効な活用方法を含め、本市の実態に即した支援体制の在り方について引き続き研究を重ねていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名キ：学校施設の活用等

取組事項

- 地域展開を推進するために、学校施設を使用する場合の優先利用や利用ルール、市の施設を使用する際に使用料を減免できる仕組みを検討した。
- 市の施設の減免については、どの団体でも可能というわけではなく、市教育委員会事務局が地域展開の活動ができるとして認めた団体のみとして、事務局で共通理解を図った。

取組の成果

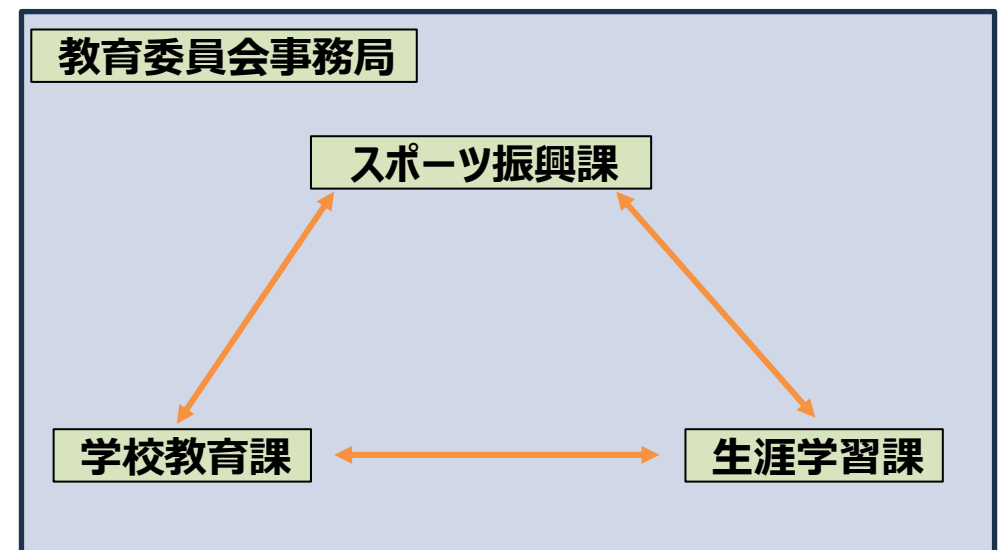
- 使用料の免除、優先利用の仕組みを活用したことで、団体がスムーズに活動場所を確保することができたので、地域展開を円滑に推進することができた。

今後の取組における課題

- 特になし

課題への対応方針

- 国の示したガイドラインに沿い、「地域クラブ活動に関する認定制度」を踏まえて、施設利用等について検討していく。また、引き続き、スポーツ振興課など関係する団体と連携・協議を重ねていく。



総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

- 今年度も、沼田市地域クラブ活動推進協議会を2回開催し、各関係団体や学識経験者等と地域展開の取組の現状について情報交換を行い、本市の方向性の確認や現状、課題等について把握することができた。課題については、やはり団体の受け皿の拡充と指導者の確保、指導者への謝金等である。それらについては、関係部署との連携を強化しながら、今後も解決に向けて取組んでいく必要がある。
- 各関係団体には、基本的に市内全域の児童や生徒を対象として活動することで、体験機会を確保したり、学校部活動にないスポーツ等に親しんだりする環境を整えることに尽力いただいた。また、来年度の「沼田スポカルDAY」の実施に向けて、学校関係者・スポーツ・文化芸術団体関係者等と協議・検討会議を実施することができ、市全体として地域展開に取組んでいく意識の向上につながったと考えている。今後とも市の現状に応じた取組を進めるために、学校・家庭・地域とが意思疎通を図り、協働・連携しながら地域展開を推進していくように働きかけたい。

●成果の評価

- 今年度も、各関係団体とも連携を図り、地域展開を着実に推進できたことが成果である。特に、関係団体が沼田市全域の児童生徒を広く対象として活動を展開したことで、体験機会を確保できた。これにより、従来の学校部活動にないスポーツ等に親しんだりできる環境整備が整うとともに、地域の専門的な指導者による質の高い指導が、児童生徒の確かな技術力向上の意欲や喚起につながった。
- 来年度からの改革実行期間への円滑な展開に向け、「沼田スポカルDAY」の取組を通じて、学校や関係団体との間で協議・検討が行えたことは市全体における地域展開の意識向上を促し、今後の具体的な取組を効果的に進める上で極めて有効な会議となった。

●今後に向けて

- 改革実行期間の進展に伴い、新たな課題が出てくることが予想されるので、行政内の関係部署間における連携をより一層密にし、迅速に対応できる組織的な体制を構築していく。あわせて、実証事業参加団体や指導者等との定期的な情報交換や意見集約を強化し、現場の実態やニーズを捉えるよう努めていく。
- 持続可能な活動体制の確立に向け、休日だけでなく平日も含めて関わることで指導者の確保と、それを支える枠組みづくりを推進し、より多くの地域クラブ活動の受け皿を拡充できる環境整備を目指し、今年度までの取組を踏まえ、成果や課題をいかしていく。

2.実証内容と成果②

参考資料



【エアロビック】



【硬式野球】



【スポーツ総合探究（ハイキング）】

2.実証内容と成果②

参考資料



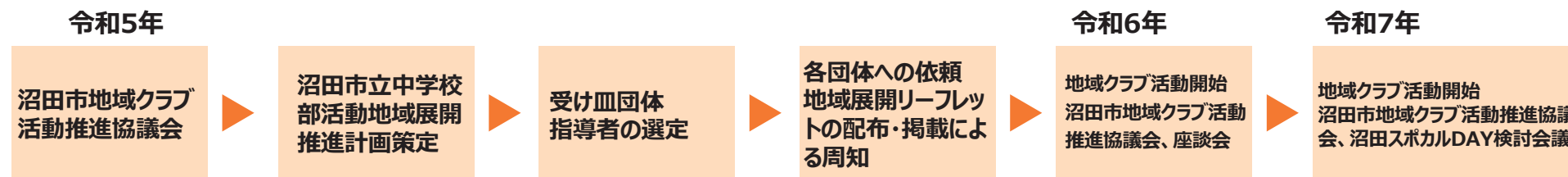
【白沢少年少女剣道教室】



【利根沼田卓球協会】

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



- ステークホルダー
沼田市地域クラブ活動推進協議会、市スポーツ協会、スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ、市文化協会代表、小中学校長会協議会、中体連、PTA連合会、教育長
- 経過
令和5年度より沼田市地域クラブ活動推進協議会を設置し、沼田市立中学校部活動地域展開推進計画を策定した。令和6年度から開始する地域展実証事業に参加いただくように各関係団体に依頼し、学校・生徒・保護者・地域へ周知を図るため、リーフレットの配布、市ホームページへ掲載を行った。
- 実施内容
令和6年4月から、地域展開へ参加する試験的な取組を開始した。地域展開は4団体5種目が活動に取り組み、基本的に市内全域の児童や生徒を対として活動することで、体験機会を確保したり、学校部活動にないスポーツ等に親しんだりすることを目的とした。
- 実施にあたって生じた課題
中学校の休日部活動は土曜日に実施されることが多く、日曜日に休むという習慣が付いているためか、日程が重複しない日曜日に活動している団体においては、参加者が伸び悩んでいる一面もある。また、団体の受け皿の拡充と指導者の確保・育成、謝金やクラブ活動の維持・運営に必要なコスト、活動場所確保等の課題がある。さらに、中体連との関わりや大会参加に関しても不透明な部分が多い。
- 今後の展開
次年度は、実証事業参加団体や各団体の指導者との情報交換・連携をより強化し、各関係団体の活動がさらに充実できるように取り組んでいきたい。また、今年度までの活動内容を踏まえ、指導者の確保、受け皿となる団体を増やせるように、その土台となる環境作りを整備していきたい。

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

○年次目標

・令和8～13年度を「改革実行期間（前期・後期）」として設定

前期：令和 8～10年度

後期：令和11～13年度

年 度		目 標 内 容
前 期	令和8年度 (改革実行期間1年目)	令和11年度までに、原則、全ての中学校に設置する全ての部活動において、休日の学校部活動の地域クラブ活動への地域展開完了を目指す。 ※学校・地域の実情により地域展開が困難な場合は、「地域連携」を推進する
	令和9年度 (改革実行期間2年目)	○沼田市推進計画を踏まえ、「沼田スポカルDAY」等の試験的な取組を実施し、地域クラブ活動の運営団体・実施主体、指導者の確保等の環境整備を進める。
	令和10年度 (改革実行期間3年目)	※沼田スポカルDAY…学校部活動を設定しない休日に、地域クラブが主体となり、スポーツ・文化芸術活動に親しむ機会を確保する。 (R8…年3回 R9…月1回 R10…月2回 R11…毎週)
後 期	令和11年度 (改革実行期間4年目)	○部活動の地域展開により実施される地域クラブ活動について、「国の総合的なガイドライン」及び「県の推進計画」に基づき、認定を行う仕組みを構築する。
	令和12年度 (改革実行期間5年目)	学校や地域の実情に応じ、全ての中学校に設置する全ての部活動において、平日の学校部活動の地域展開の取組をできるところから進める。
	令和13年度 (改革実行期間6年目)	○国や県の動向を注視し、各種課題を解決しながら取組を推進する。 ○改革実行期間前期において試験的に実施された取組に対する成果や課題を検証した上で、改めて取組方針を策定し、更なる取組を推進していく。

令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

群馬県渋川市

自治体名： 渋川市

担当課名： 学校教育課

電話番号： 0279-22-2121

実証事業の概要1

渋川市

～地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業～



基本情報

面積	24,027km ²
人口	71,273人
公立中学校数	9校
公立中学校生徒数	1,612名
部活動数 (運動部活動のみ)	77部活
地域クラブ活動数	5クラブ
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置予定あり
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定に向けて準備中

地域連携・地域展開における現状・課題・方向性および運営体制

【現状・課題・方向性】

【現状】

- 生徒数の減少に伴い、部活動が休部あるいは廃部の傾向にある。
- 生徒数減少に伴って、教員の配置数も減少し、顧問に係る負担が増加している。

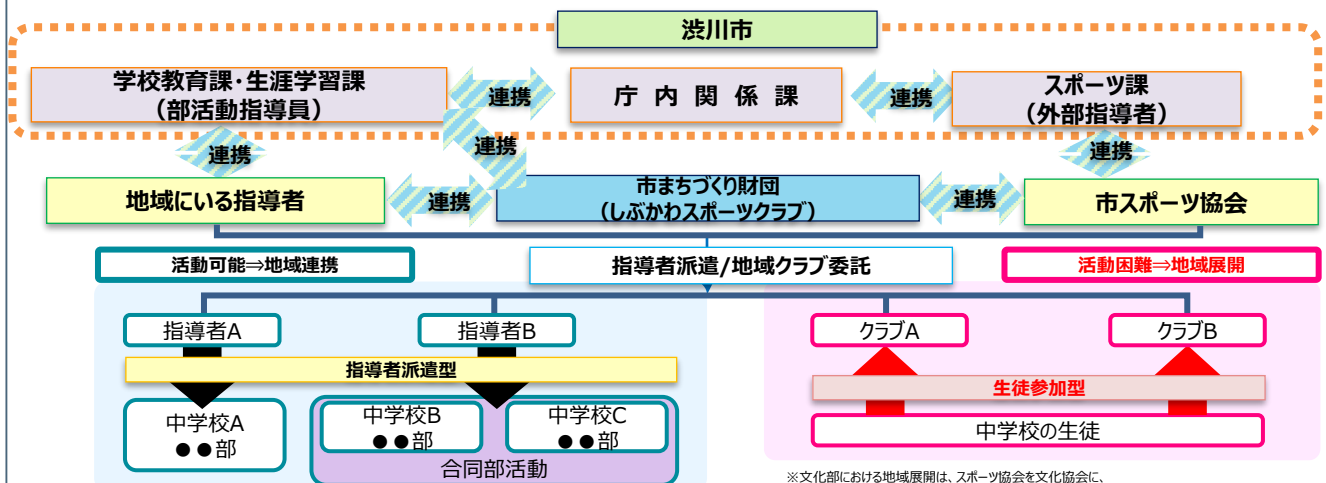
【課題】

- 生徒や学校のニーズにあった指導者を確保できず、地域クラブとしての体制が整わない競技もある。
- 鍵の借用方法や、教室開放をすることによるセキュリティ上の問題がある。
- 体制整備事業による補助金の終了後における指導者報酬や賠償保険、地域クラブ運営費等の費用確保等の難しさがある。
- 活動場所までの保護者送迎の負担がある。

【方向性】

- 部活動地域展開推進に向け、庁内検討委員会や課内会議において課題の整理を行い、課題解決に向けた検討を行う。
- 運営体制の整備に向けた協議を関係団体と行う。

【運営体制】



※文化庁における地域展開は、スポーツ協会を文化協会に、スポーツ課を生涯学習課に置き換えるものとします

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	24,027km ²
人口	71,273人
公立中学校数	9校
公立中学校生徒数	1,612名
部活動数 (運動部活動のみ)	77部活
地域クラブ活動数	5クラブ
市区町村の協議 会・検討会議等の 設置状況	設置予定あり
市区町村の推進計 画・ガイドライン等の 策定状況	策定に向けて準備中

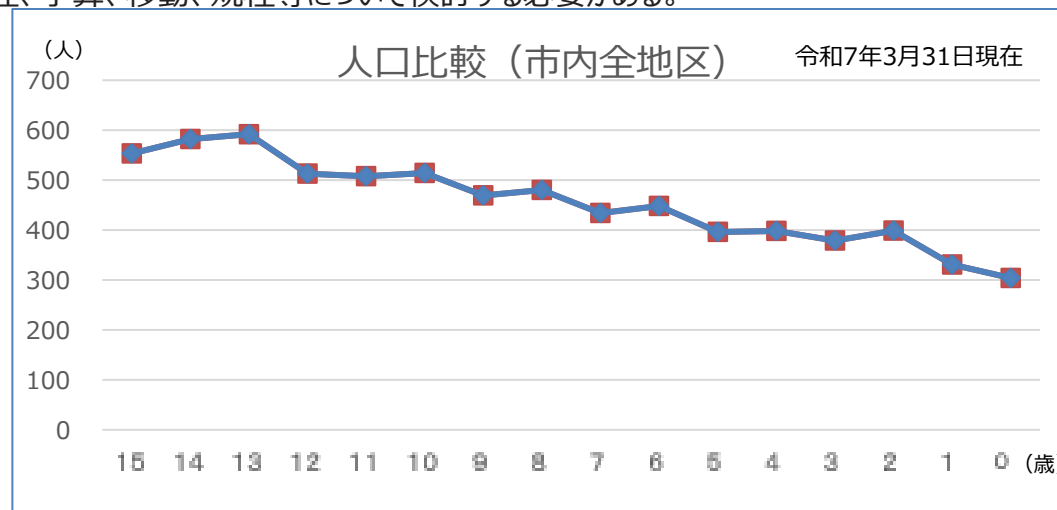
地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

渋川市には9つの中学校があり、運動部活動については、14の競技種目がある。また文化部活動については、吹奏楽部・美術部が活動している。

渋川市の子どもは下記のとおり、年々減少傾向であり、その結果、教職員数も減少し、各中学校において部員数不足により部活動が成立しない状況がある。

このような中、渋川市では、「地域連携」として単独または合同チームにより活動が継続できる競技部に対して、部活動指導員や外部指導者を学校に派遣して生徒を指導している。一方で、活動困難な部活動については「地域クラブ」を立ち上げ、その地域クラブに生徒が参加する形で、部活動の地域展開を実施した。

今後の地域展開を進める中で、学校の垣根を越えて地域クラブ活動に移行する体制を構築し、生徒が様々なスポーツ・文化芸術活動に親しむ環境を整備できるようにするため、指導者確保、施設管理、予算、移動、規程等について検討する必要がある。



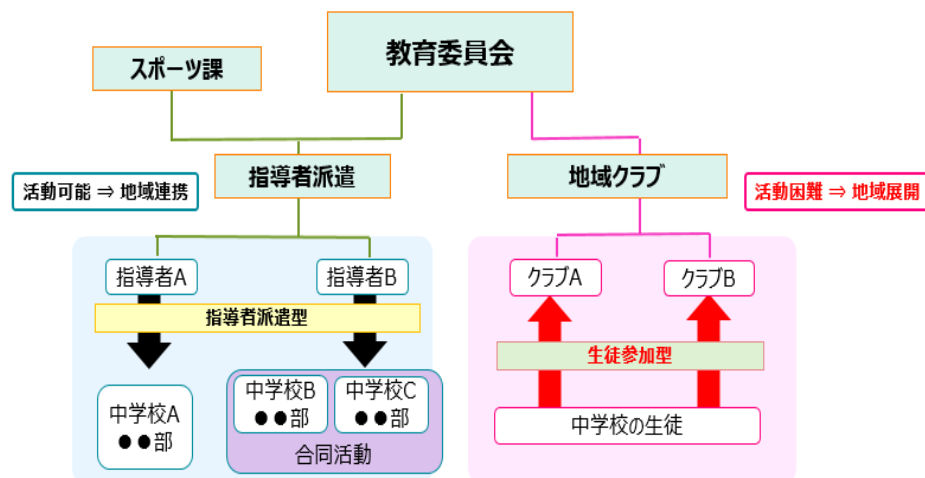
〈渋川市ホームページ上のデータより作成〉

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●市区町村における推進体制図

生徒が様々なスポーツ活動や文化芸術活動に親しむことができる環境を整備していく



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・渋川市部活動地域展開の方針策定
- ・渋川市部活動地域展開事務全般（手続き・契約・報償費支払い等）
- ・学校、関係団体・地域クラブとの連携

◎市長部局（関係各課）

庁内検討委員会を通して、渋川市部活動地域展開方針の確認や課題解決に向けた協議

年間の事業スケジュール

令和7年4月1日～ 令和8年2月16日	地域スポーツクラブ活動の実施（スケート、体操、軟式野球、バレーボール、バドミントン）、合同練習会の実施（柔道）
令和7年4月	市長部局へ部活動地域展開に関する説明
令和7年5月	令和7年度第1回部活動地域展開庁内検討委員会
令和7年7月～ 令和8年3月	部活動地域展開に向けた課内会議
令和7年8月	市長部局へ部活動地域展開に関する説明 近隣市町村と情報交換
令和7年9月	関係団体へ部活動地域展開に関する説明
令和7年11月	市長部局へ部活動地域展開に関する説明
令和8年2月	関係団体へ部活動地域展開に関する説明

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		5クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域展開した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）		5クラブ（5部活動）
	B：部活動にはない種目等、新規の地域クラブ活動数		0クラブ
全体の指導者数	28人	全体の運営スタッフ数	28人

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数 (平日・休日)	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
澁川市体操協会	競技団体	体操	・平日 1回 ・休日 1回	(平日) 19:00～21:00 (休日) 12:30～15:30	中学3年：1名 ※小学1年生～高校生まで参加	1年	3人	3人	1,000円/月	中体連
SYC	競技団体	軟式野球	・平日 1回 ・休日 1回	(平日) 19:30～21:00 (休日) 9:00～12:00	1年生：11人 2年生：9人 3年生：11人	1年	15人	15人	3,000円/月	中体連
VC澁川	競技団体	バレーボール	・平日 3回 ・休日 1回	(平日) 19:00～21:00 (休日) 9:00～12:00	1年生：16人 2年生：8人 3年生：15人	1年	5人	5人	500円/月	大会不参加 ※基礎技術力向上のため
澁川スケートクラブ	競技団体	スケート	・平日 2回 ・休日 1回	(平日) 19:00～21:00 (休日) 9:00～12:00	2年生：1人 3年生：1人	1年	4人	4人	5,000円/月	中体連
らいらっく	競技団体	バドミントン	・休日 1回	(休日) 12:30～15:30	1年生：6人	7ヶ月	1人	3人	10,000円/年	大会不参加 ※年度途中新規立ち上げクラブのため

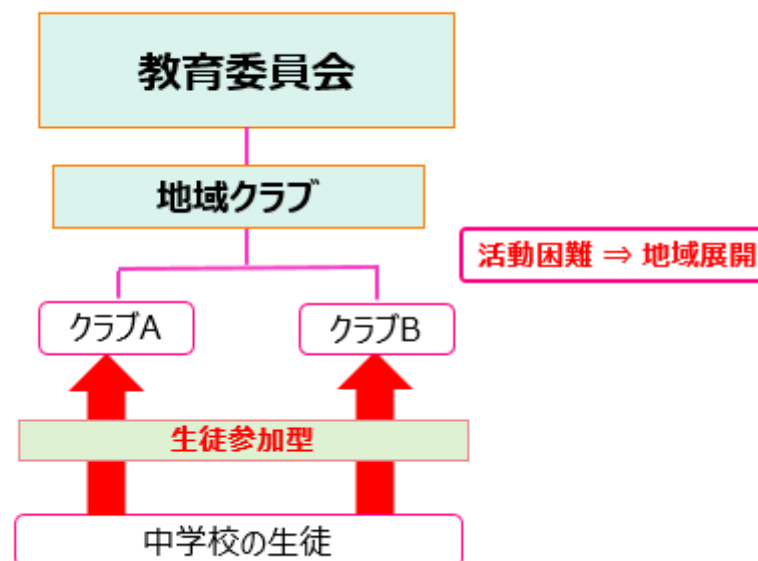
2.実証内容と成果

主な取組例

● 渋川市地域クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	体操、軟式野球、スケート、バレーボール、バドミントン
運営団体名	各種地域スポーツクラブ
期間と日数	- 体操：月8回程度 - 軟式野球：月8回程度 - バレーボール：月16回程度 - スケート：月12回程度 - バドミントン：月2回程度
指導者の主な属性	教員退職者、自営業者、学生、会社員
活動場所	学校施設や市有料施設
主な移動手段	保護者による送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	- 体操：12,000円 - 軟式野球：36,000円 - バレーボール：6,000円 - スケート：60,000円 - バドミントン：10,000円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

● 地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



● 指導者や運営スタッフ等の役割分担等

- 自治体
役割：地域クラブへ本事業のサポートを行う。
- 統括責任者
役割：地域クラブの責任者。クラブの運営や指導者の派遣計画の立案等。
- 主任指導者
役割：クラブ指導者のリーダー。生徒への技術指導のほか、クラブスタッフへ指導の研修等を行う
- スタッフ：主任指導者のサポートを行う。クラブの方針にのっとり、生徒への技術指導を行う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- ・関係部局との連携強化を図るため、全庁的な部活動地域展開に係る庁内検討委員会を開催した。
- ・部活動地域展開推進委員会の開催に向けて調整を図ったが、人選や協議事項を含めた計画が遅れ、今年度の立ち上げには至らなかった。
- ・部活動地域展開における現状への理解を促進するため、市内中学校を訪問し、教員や保護者向けの説明会を実施した。
- ・部活動の地域展開に関するリーフレットを作成し、関係者への情報提供を行った。

取組の成果

- ・庁内検討委員会において、全庁的に部活動地域展開の方向性を確認・協議できた。今後の基本方針や計画を策定する上で参考になった。
- ・教員や保護者を対象とした説明を行うことで、少子化に伴う部活動の人数不足等、学校が直面している現状と課題への理解を促すことができた。
- ・市内の全小中学生（児童・生徒）へリーフレットを配付し、部活動を取り巻く現状についての周知を図ることができた。

今後の取組における課題

- ・庁内検討委員会について、今後は定期的な開催体制を構築する必要がある。
- ・市としての方針や計画の検討が不十分であったため、部活動地域展開推進委員会（外部委員を含む）を立ち上げる。
- ・リーフレットの配付が年1回にとどまったため、今後は定期的に発行し、進捗状況を継続して発信していく必要がある。

課題への対応方針

- ・庁内検討委員会を定期的に開催するため、次年度の年間スケジュールを早期に策定し、計画的な運営を図る。
- ・部活動地域展開における方針や計画をより強固なものとするため、定期的な推進委員会を通じて多様な意見を反映させつつ推進する。まずは基本方針を確定させ、それに基づき具体的な計画を策定していく。
- ・リーフレットの定期発行に向けて、市内の地域クラブや中学校への定期的なヒアリングを実施し、最新の状況把握に努める。また、情報交換会等を開催することで、現場の課題整理を並行して進める。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

- ・指導者の質の保証として市スポーツ協会各競技部と連携し、指導者を派遣した。
- ・現在配置している部活動指導員及び外部指導員を招集し、指導者研修会を開催した。
- ・指導者の量の確保として、スポーツ協会をはじめ、様々な関係団体との情報交換を実施した。

取組の成果

- ・市スポーツ協会との連携により、有資格者の派遣が可能となった。また、資格取得に向けた働きかけも実施した。
- ・部活動指導員及び外部指導者の合同研修会を開催。スポーツハラスメントや性暴力の未然防止・根絶の徹底を共通認識とし、指導にあたることを確認した。
- ・スポーツ協会をはじめとする様々な関係団体と、地域展開の推進に向けた情報交換を行った。

今後の取組における課題

- ・資格取得に向けて費用がかかる点や、長時間の拘束が生じる等の課題があり、資格取得につなげられないことがあった。
- ・指導者研修会は担当者が行ったが、専門家による講義などを取り入れ、具体的な事例を交えた内容を検討する必要もあった。
- ・指導者の確保については、今後もスポーツ協会を始めとする様々な団体に協力を依頼し、人材を確保していく必要がある。

課題への対応方針

- ・資格取得に向けた補助金支給の仕組み作りをし、資格取得を推奨する。
- ・研修の充実のため、県の派遣制度を活用し、専門家による講義等を取り入れる。
- ・合同研修会を継続的に実施できるよう計画する。
- ・各団体への協力依頼を継続するとともに、県の人材バンク登録情報を活用して指導者を確保する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- ・庁内関係課と連携を図り、積極的な情報共有を行った。
- ・スポーツ協会やスポーツ少年団の会議等に参加し、関係強化を図った。
- ・渋川スポーツクラブとは定期的に情報交換を重ね、課題解決に向けた意見交換を行った。
- ・実施主体等の現状把握のため、中体連の協力を得て部員数調査を実施した。また、合同部活動数についても適宜情報の共有を受け、現状の把握に努めた。

取組の成果

- ・庁内関係課と連携を図ったことで、スポーツ協会やスポーツ少年団等とも連携が図りやすくなった。
- ・スポーツ協会やスポーツ少年団の会議等に参加したことで関係者とのつながりができ、今後の関係強化に向けた足がかりとなった。
- ・中体連との連携により、部活動の地域展開を進める上での課題を整理することができた。

今後の取組における課題

- ・庁内関係課との連携をさらに拡充していく必要がある。
- ・スポーツ協会やスポーツ少年団の関係者に対する部活動地域展開の周知が不十分であり、説明の場を設定する必要性があった。
- ・個別の団体との連携は図れているが、関係組織全体での意見交換や情報交換の場が必要である。
- ・中体連とも課題を共有し、積極的に情報交換を行っていく必要がある。

課題への対応方針

- ・庁内関係課との連携を拡充するため、課題に応じたワーキンググループを設置・運営し、課題解決に向けた共通認識の醸成を図る。
- ・スポーツ団体の会議の場において部活動地域展開の説明を行い、周知を図るとともに、地域クラブとして活動の協力を依頼していく。
- ・市内の関係組織全体で共通認識を形成するため、部活動地域展開推進委員会を開催する。
- ・中体連との定期的な情報交換の場を設けるとともに、部活動地域展開推進委員会への代表者の参加を要請する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

取組事項

- ・国が示したガイドラインを参考に、本市における参加費、保険等に係る費用負担について課内会議において検討した。
- ・実証研究を行う地域クラブと、クラブ運営に係る必要経費の算出や支援内容について情報交換を行った。
- ・県内外のシンポジウムに積極的に参加し、各県や各市町村の取組について情報を得るとともに、各種保険の取扱いについて企業と情報交換を行い、今後の支援の情報を得た。

取組の成果

- ・競技によって必要経費が異なるため、低廉な参加費を設定するにあたり参考となる情報交換が地域クラブ関係者で行うことができた。
- ・地域クラブが必要とする経費や必要な支援について、地域クラブ指導者と情報交換をすることができた。
- ・指導者への報酬のほか、保険料や運営費用等、クラブ運営に係る具体的な費用を知ることができた。

今後の取組における課題

- ・参加費用を一律に設定することへの難しさがある。
- ・傷害保険や賠償責任保険等、支援する範囲と受益者負担とのバランス調整が課題となっている。
- ・地域クラブ参加費用負担や支援等については、様々な立場からの意見が必要となる。
- ・参加費用負担や支援等については継続的な部活動地域展開推進委員会の場において検討をしていく必要がある。

課題への対応方針

- ・参加費用の検討を進める上で、地域クラブ運営に係る費用の情報を得ることが必要となる。そのため、情報交換の場を設定する。
- ・参加費用の負担については、継続的に課内会議において検討を進める。また、庁内検討委員会や部活動地域展開推進委員会を開催し、参加費用負担について意見交換を行い検討を進める。
- ・保険や支援に関する課題についても同委員会から意見を募り、あわせて検討を進めていく。
- ・シンポジウムへの参加や情報交換会において、近隣地域の取組を参考にしながら、検討を進めていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

- ・地域クラブが活動場所として学校施設を使用できるよう、各学校へ協力依頼を実施した。
- ・市内各中学校と情報を共有し、学校の施設や備品等を活用して地域スポーツクラブ活動を実施した。
- ・地域クラブの学校施設利用にあたり、他団体との重複を避けるため、施設を管理する関係課と連携して仕組み作りを行った。
- ・地域スポーツクラブ活動における活動場所の鍵の貸し借りについて、関係団体と意見交換を行った。

取組の成果

- ・市内各中学校の施設や備品を活用できたため、新たな用具を購入することなく活動を実施できた。
- ・学校と調整を行ったことで、用具置き場の確保ができ、学校施設の活用について進展が見られた。
- ・関係課が学校施設の使用調整を行ったことで活動場所を確実に確保でき、他団体との重複も回避できた。
- ・鍵の受け渡しの簡略についてスマートキーロックの導入を含めた、検討を始めることができた。

今後の取組における課題

- ・市内各中学校の施設・備品等には限りがあり、老朽化も進んでいるため、今後は新たな器具等の購入を検討する必要がある。
- ・地域クラブの拡充に伴い、クラブ間で利用施設が重複することが予想される。重複した場合の施設利用の調整や利用時間の調整をする担当者の増員が必要となる。
- ・市有施設の利用を検討しているクラブがあるため、学校施設以外の利用調整や、使用料の減免申請に関する手続き等の課題が想定される。

課題への対応方針

- ・安心・安全に地域クラブ活動が行えるよう、必要な器具等の状況を把握し、環境整備を進める必要がある。市内で使用可能な器具や用具の有無についても把握するため、現地調査を行う。
- ・施設の調整については関係機関と連携を図り、スムーズな施設利用につながるための課題の把握と仕組み作りの検討をしていく。
- ・まずは学校施設の利用を第一に検討し、市有施設についても関係する施設や団体との意見交換・調整を行う。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

今年度は部活動地域展開に向け、3つの柱を中心に進めた。1つめの柱は地域クラブの拡充である。年度当初より、関係団体へ地域クラブ化に向けた情報交換を行い、体制を整備してきた。継続して取組を進める団体の他に、新たな種目の地域クラブの拡充を図ったが、目標としていた地域クラブ数に到達することができず、達成率は43%に留まった。

2つめの柱は庁内関係各課をはじめ、スポーツ・文化芸術団体の関係者に説明と情報共有を行うことである。部活動地域展開を進める上で共通の認識をもつことが重要と考え柱に据えた。関係団体の会議において説明の機会を設けてもらい、情報を共有することができたことは大変よかった。

3つめの柱は部活動地域移行推進委員会の実施である。今年度部活動地域移行推進委員会を実施するために、部活動推進方針や推進計画を作成し準備は進めてきた。しかし、推進方針や推進計画の見直しに時間を要したことや、国や県の推進計画が新たな移行時期に入ること等が重なったことで実現に至らなかった。

〈地域クラブ〉

- 渋川市体操協会（体操）
- SYC（軟式野球）
- VC渋川（バレーボール）
- 渋川クラブ（スケート）
- らいらっく（バドミントン）
- 〈関係団体会議への出席と関係者との情報共有〉
- 〈部活動地域移行にかかる会議の実施〉
- 庁内検討委員会 1回

●成果の評価

〈昨年度の課題〉

- 生徒や学校のニーズにあった指導者が確保できない。
- 鍵の借用方法や、教室を開放することによるセキュリティ上の問題がある。
- 活動場所までの送迎等、保護者の負担がある。

〈成果と今年度の課題〉

- 指導者確保に向けて関係者や関係する団体に協力を願うことができた。今後の地域展開に向けて、引き続き関係団体に協力を願い、指導者の確保を行っていく。
- 今年度は鍵の借用方法の解決に向け検討を行った。スマートキーボックスの設置や、アプリの導入等、様々な方策を検討したが、設置施設の検討や費用等の関係で実際の設置には至らなかった。
- 活動場所までの送迎等の保護者負担については、関係課の協力の下、デマンドバスや路面バスの利用時にかかる費用や時間を整理することができた。

●今後に向けて

- まずは休日の地域展開に向け、関係団体との調整や、地域クラブ設立に向けた周知活動を行う。
- 部活動地域展開推進委員会の開催に向け、委員会出席者の調整や議題内容の精選を早期に検討していく。
- 指導者確保に向けて、関係する団体と連携をする。
- 施設の使用における課題について、検討・改善を図る。
- 保護者負担については、送迎や受益者負担の問題を含め、推進委員会において検討できるよう準備をする。
- 他市町村と連携や情報共有をし、取組むべき課題と推進していく方向性を共有する。
- 県内外の部活動地域展開先進地に視察をし、知見を広げ、本市の取組の参考にする。

2.実証内容と成果②

参考資料



【体操の活動の様子】



【軟式野球の活動の様子】



【バレーボールの活動の様子】



【スケートの活動の様子】

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和6年7月

クラブ訪問
活動視察

令和7年4月

体制整備事業
説明

5月

地域クラブ化に
向けた情報交換

6月

地域クラブ活動
をするために必要
な書類等の説明

7月

体制整備事業とし
て地域クラブ活動
開始

8月

情報交換

- ステークホルダースポーツ競技団体
- 経過
 - ・ スポーツ少年団で活動する団体へ見学に行き、意見交換を行った。活動を実施するにあたっての不安要素を整理できるよう意見交換を行った。
 - ・ 実施内容、工夫した点等
 - ・ 立ち上げまでの手順や、活動までの流れ等を説明した。
 - ・ 補助金額や、保険加入について説明をした。
 - ・ 部活動ガイドラインについて説明を行い、学校部活動の意義を踏まえた指導を依頼した。

- 経過
 - ・ 競技団体が中学生の受け入れを開始。
 - ・ 部活動地域移行のための地域クラブ化への協力を依頼し、地域クラブ立ち上げについて意見交換を行った。
- 実施にあたって生じた課題
 - ・ 活動場所の確保が困難
 - ・ 地域クラブ活動開始までの流れや手続きの複雑さ
 - ・ 地域クラブが中体連に登録するための資格取得について
- 実施内容、工夫した点等
 - ・ 活動場所は学校施設が使用できるよう、関係課と連携し、調整を行った。地域クラブの活動が優先できるよう継続的な検討を進めていくことを関係課と確認した。
 - ・ 地域クラブ活動が開始されるまでのサポートを教育委員会が行った。
 - ・ 地域クラブが中体連に登録するために必要な資格取得に関わるサポートを関係課と連携し行った。

- 経過
 - ・ 地域クラブを立ち上げ、活動を開始した。
 - ・ 課題の整理や、今後の改善に向けた情報交換を行った。
- 実施にあたって生じた課題
 - ・ 活動場所の確保
 - ・ 中体連大会参加について
 - ・ 練習試合や合同練習等の交流がもてない
- 実施内容、工夫した点等
 - ・ 活動場所を変更するため、施設を管理する関係課と連携し、施設が利用できるよう再調整を行った。
 - ・ 令和8年度に中体連に登録し、大会に参加したいとの相談があったため、中体連とつながれるよう支援をした。
 - ・ 地域クラブ立ち上げ後、市内中学校部活動との交流を図る支援を行った。

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

1. 短期的（令和8年度）

- 体制整備事業を拡充し、部活動地域展開の受け皿の拡充を図る。
- 部活動地域展開コーディネーターを2名配置（予定）し、クラブ運営のマネジメントや制度の整備を進める。

2. 改革期間前期（令和10年度までに）

- 市内全中学校の土日の部活動を地域のクラブ活動へ展開完了を目指す。
- 部活動地域展開コーディネーターを総合型地域スポーツクラブに配置（予定）し、クラブマネジメント、事務運営を行う。

3. 改革期間後期（令和13年度までに）

- 平日も含めた部活動の地域展開を拡充する。
- クラブマネジメント業務を総合型地域スポーツクラブに委託する仕組みの構築。

令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

群馬県藤岡市

自治体名：群馬県藤岡市

担当課名：教育委員会学校教育課

電話番号：0274-50-8212

1.自治体の基本情報

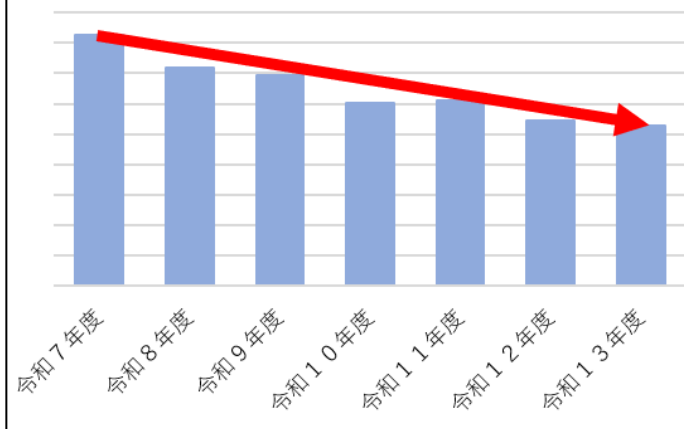
基本情報

面積	180.29km ²
人口	59,687人
公立中学校数	5校
公立中学校生徒数	1,423人
部活動数 (運動部活動のみ)	59部活
地域クラブ活動数	2クラブ
市区町村の協議 会・検討会議等 の設置状況	設置済
市区町村の推進計 画・ガイドライン等の 策定状況	策定に向けて準備中

地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

- ◇ 令和7年度から令和13年度に中学校に入学する生徒数の推移は、7年度413名、8年度358名、9年度347名、10年度301名、11年度305名、12年度272名、13年度264名と一貫して減少していくことが予測されている。7年間で中学校入学生徒数は約36%の減少が見込まれる。
- ◇ 来年度に単独でチームを組むことが難しい、あるいは廃部の見込みがある部活動が、すでに6つ確認されている。該当するのは軟式野球、サッカー、バスケットボール、ハンドボールといったチームスポーツである。部活動という枠組みから地域展開への必要感が、少しずつ高まることが予想される。
- ◇ 部活動に関わる教員、生徒、保護者の部活動の地域展開への意識を踏まえつつ、関係団体との協議を行い、段階的に地域展開を進めていく。
- ◇ 部活動指導員から地域クラブ活動での指導者として関わっていただいている事例が2件ある。(剣道・男子バスケットボール)
- ◇ 今年度は地域移行協議会参加者を一旦しぼったが、改めて広く関係団体等に参加していただけるようにしていく。
- ◇ 安定して指導者の確保ができる体制に至っていないので今後も指導者の発掘を継続して行っていく。
- ◇ 受益者負担についての検討が進んでいないので、負担額等についての検討を進める
- ◇ 部活動指導員が、地域指導者としても関わっているため難しい手続き等がなく学校施設を開放できている。
- ◇ しかし、必ずしもその体制が取れるわけではないので、体制整備について検討していく。

中学校入学生徒数の変化

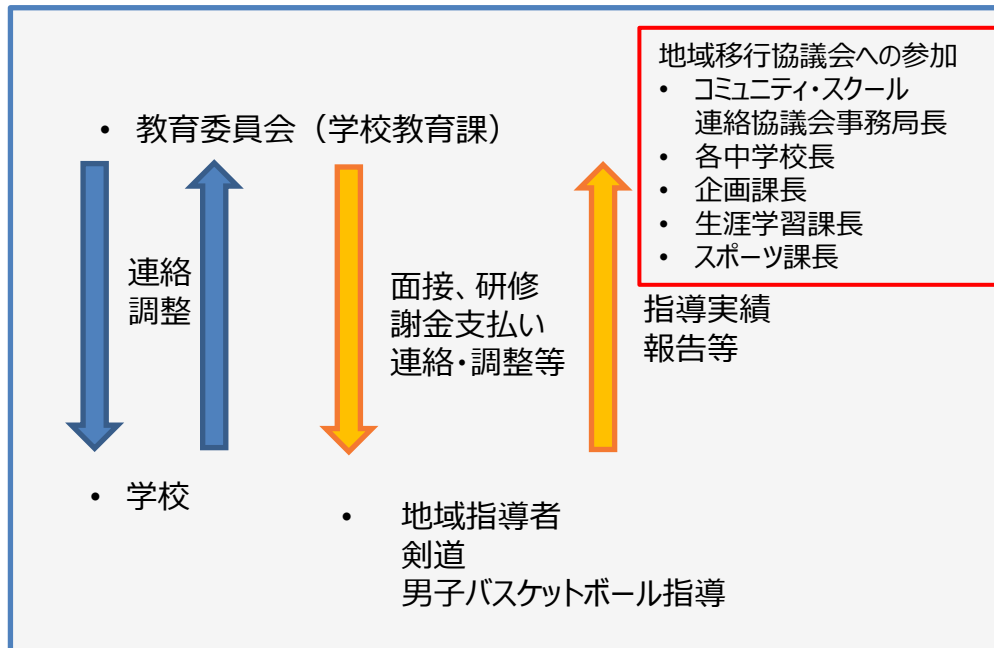


【各年度5月1日生徒数および学級数調査の数値より】

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●市区町村における推進体制図



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会（学校教育課課）

- ・ 学校や指導者との連絡調整
- ・ 地域指導者との面接、研修の実施
- ・ 指導実績の管理、謝金の額の確定

◎首長部局（企画課）

- ・ 地域移行協議会への参加

年間の事業スケジュール

藤岡市事業スケジュール

4月	クラブ活動の市内全校生徒への周知、募集
5月	活動開始
6月	
7月	
8月	
9月	近隣市町村からの情報収集
10月	次年度予算検討
11月	
12月	中学校入学説明会に向けた検討・協議
1月	生徒、保護者、顧問対象アンケート 次年度の方向性について保護者周知
2月	次年度の方向性について保護者周知
3月	次年度の計画の作成、検討

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		2クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）	2クラブ（計2部活動）	
	B：部活動にはない種目等、新規の地域クラブ活動数	0クラブ	
全体の指導者数	2人	全体の運営スタッフ数	0人

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数 (平日・休日)	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
男子バスケットボールクラブ	教育委員会	バスケットボール	・平日 4回 ・休日 33回	午前中	3年 3人 2年 6人 1年 3人	5月～1月	1人	0人	0円 /年額 (等)	中体連
剣道クラブ	教育委員会	剣道	・平日 0回 ・休日 9回	午前中	3年 7人 2年 6人 1年 9人	5・6・10・ 11・12・1月	1人	0人	0円 /年額 (等)	中体連

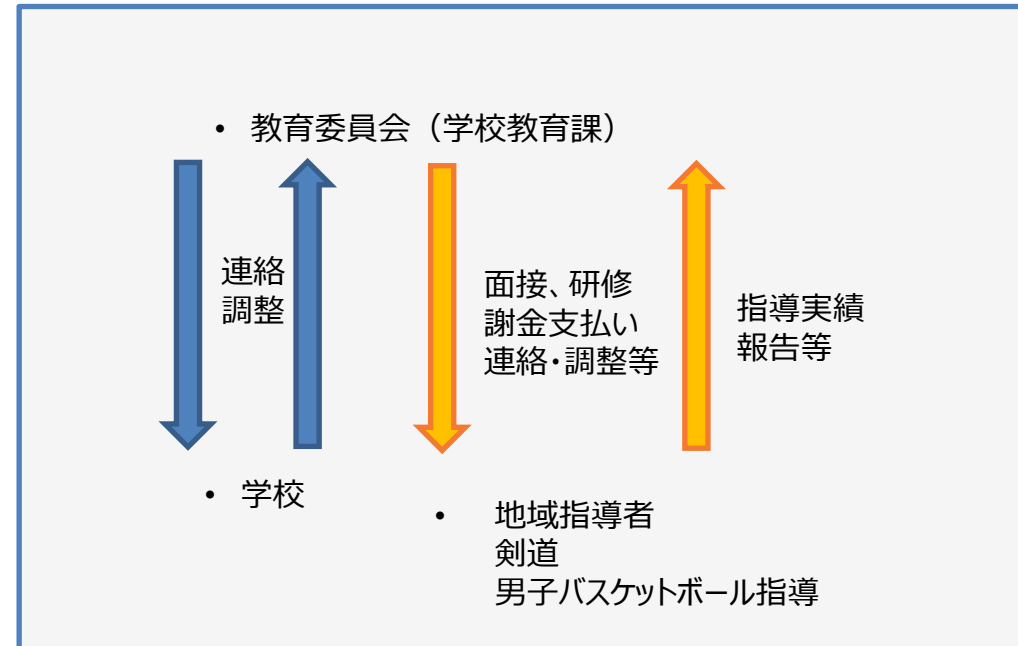
2.実証内容と成果

主な取組例

●男子バスケットボールクラブ・剣道クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	バスケットボール 剣道
運営団体名	教育委員会
期間と日数	バスケットボール：月3回程度 剣道：月1回程度
指導者の主な属性	個人
活動場所	学校体育館
主な移動手段	自転車
1人あたりの参加会費等 (年額)	バスケットボール：0円 剣道：0円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人：1,850円/年 1人：1,200円/年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



●指導者や運営スタッフ等の役割分担等

●自治体

役割：学校や指導者との連絡調整を行う
指導者との面接、指導者への研修を行う
消耗品の手配を行う 等

●指導者 2名

役割：バスケットボールや剣道の指導を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

藤岡市地域移行協議会を1回開催（通算6回）

昨年度まで、市の単費で行っていたモデル事業の成果と課題について報告したり、今年度から実施した地域スポーツクラブ活動体制整備事業の現状等について報告したりした。また、来年度以降の藤岡市における地域展開の方針について共有し、協議を行った。

地域指導者に安全面や生徒とのかかわり方等について研修を行った。

実証事業に参加した指導者、生徒、保護者にアンケートを行った。

取組の成果

地域移行協議会の報告や協議の中で、学校現場の声を聴きながら方向性を検討できた。

アンケートの回答から、地域指導者がやりがいを感じながら指導に当たっていたことが分かった。また、来年度も継続して指導をしていきたいという思いも共有することができた。

アンケートの回答から実証事業に参加した生徒や保護者は地域展開に関して好意的にとらえていることが分かった。

コーディネーターの 具体的な動きの実績

練習回数や練習時間の相談。
必要物品の確認、手配。
必要資料作成。

地域クラブ活動の 運営効率化に向けた取組

指導者とSNSで連絡を取り合い、情報共有をこまめに行った。

今後の取組における課題

地域移行協議会に関して予定回数よりも実施回数が少なくなってしまった。地域スポーツクラブ活動体制整備事業を今年度から開始したこともあり、情報収集がうまくいかなかった面があったため、情報を発信するまでに時間がかかってしまった。

運営団体の整備について進んでいない現状がある。

新たな実施主体の整備（指導者の確保）の見通しが持てていない。

アンケート対象がまだせまい部分がある。

課題への対応方針

スポーツ課等、他部署との連携を強め、アンケート調査対象の幅を広げ、さらに情報収集を進めながら協議会を定期的に行っていくことで、地域との情報共有に努めたい。

運営団体の整備に関して、既存の団体等に声をかける等、整備に向けて取組んでいきたい。

運営団体・実施主体の 安全性確保に向けた取組

藤岡市の部活動の運営に関する指針を基に、練習日数や練習時間、休日の設定等について情報共有をした。これにより、参加生徒に過度の負担がかからないように配慮した。

地域クラブ活動における トラブル・事故発生時の対応方針

事故が発生した場合には、現場にいる指導者が必要に応じて救急要請や保護者への連絡を行う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

部活動指導員として生徒との関わりがある方に地域指導者として指導にあたっていただいた。また、安全面や生徒とのかかわり方について研修を行った。教員の兼職兼業に関して、他地域での運用の事例等情報収集を行った。県の指導者バンクでの人材確認やスポーツ協会の協力団体の指導可能者の確認等を行った。

取組の成果

中学生への指導経験がすでにある方に地域指導者として関わっていただいたため、生徒や保護者の安心感につながった。
また、競技指導だけでなく安全に関する指導も行ってもらえたため、生徒が危険なプレーを避けることも学び、安全面の確保にもつながった。
兼職兼業の仕組みについての理解が深まった。

多様な人材の発掘・配置に向けた取組

県の指導者バンクでの人材確認。
藤岡市スポーツ協会の協力団体の指導可能者の確認。
部活動指導員の中で、地域指導者として指導が可能でありそうな方への働きかけ。

指導者研修の内容

研修名	地域展開指導者研修
講師	教育委員会指導主事
研修内容	中学生世代の特徴を踏まえた指導の在り方や保護者対応、安全確保に向けた取組等に関する研修

今後の取組における課題

スポーツ協会常任理事会での情報発信まで至らなかった。
現状では指導者の質の部分についての心配がないが、これから多くの指導者に関わってもらう際のチェック体制等についての検討が必要。
教員の業務改善に向けた取組の推進が求められる。
兼職兼業に関して、教員の残業時間との関係で進んでいない。
指導者バンクの指導者と学校や生徒のニーズとのマッチがうまくいっていない。

課題への対応方針

スポーツ協会とのかかわりが強いスポーツ課との連携を強め、情報発信に努めていく。
今年度は指導者との連絡・相談が主だったものであったが、生徒や保護者との連絡・相談窓口のようなものについて検討できるようにしていく。
地域指導者として指導を行いたい教員に向けた情報提供等を行い、地域展開での指導が可能になるような働きかけに努めていく。

指導者研修受講者の声

受講者は2名

受講者①

すでに指導の中に生かしていることではあるが、安全への配慮や生徒の思いを組んだ指導の大切さを改めて確認できた。

受講者②

競技力の向上にばかり目が向くことなく、部活動の教育的要素を大切にして、人としての成長にもつなげていきたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

県の人材バンクでの人材確認は行ったものの、登録の推進といった連携強化にまで至らなかった。

取組の成果

人材バンク登録者の把握。

今後の取組における課題

今年度の実践から得た成果と課題等をまとめ、具体を示しながら連携強化につなげていく必要がある。

関係団体・分野への情報提供や情報共有が不十分。

課題への対応方針

関係団体の会議等に参加するだけでなく、情報を集めやすくする情報共有方法や人材バンク登録の推進方法について検討していく。

スポーツ課等、他部署との連携を強め、協力可能な団体に働きかけながら藤岡市版の人材バンクの作成・活用について検討していく。



指導者・サポーターバンク

R7ぐんま部活動・地域クラブ活動

群馬県は、運動部活動の地域連携・移行を推進するため、「ぐんま部活動・地域クラブ活動指導者・サポーターバンク」を設置しています。

公認スポーツ指導者資格等をお持ちの「指導者」や、スポーツの経験がなくても指導や安全管理の補助にご協力いただける「サポーター」を募集します。

是非、群馬県の子どもたちのためにご検討ください。

部活動の地域連携・移行とは？

詳しくはこちらをご覧ください

スポーツ庁「部活動改革ポータルサイト」

令和7年度の応募はこちら

群馬県とも連携。ぐんま部活動・地域クラブ活動指導者・サポーターバンクを積極的に活用する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



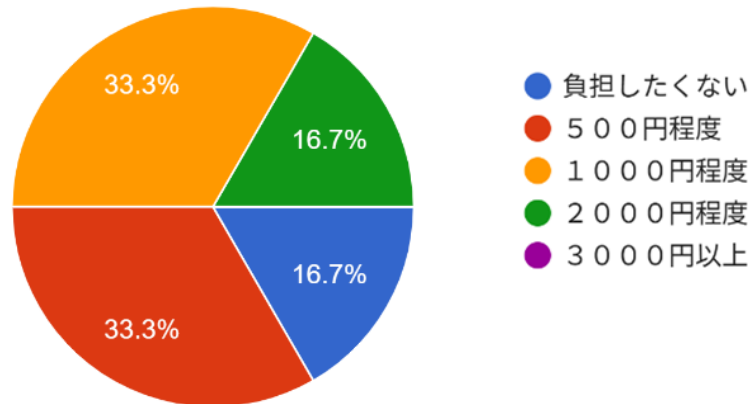
取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

取組事項

受益者負担として、支払いが可能と感じる金額について実証事業に参加した生徒の保護者に向けて、アンケートを実施。

Q.「地域スポーツクラブ活動」の費用の負担について月あたりいくらまでなら、家庭で負担してもよいと感じますか。



取組の成果

受益者負担として支払い可能と感じる上限は2,000円程度だった。それ以上の額はアンケートの選択肢にあっても選ばなかった。
回答の中には支払いたくないとの回答もあった。部活動のイメージを強くもっているようだった。

今後の取組における課題

現状では国の事業を活用し、受益者負担なく地域展開を進めるきっかけとしての取組ができたが、保護者の受益者負担についての理解を深めていく必要がある。
受益者負担が生じることがなかったため、生活困窮者への行政支援については進んでいない。今後を見据えて検討を進めていく。

課題への対応方針

アンケート対象や受益者負担に関する説明の幅を広げ、保護者の理解を深められるよう努める。
受益者負担額や生活困窮者への行政支援について、今後を見据えて検討を進めていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

用具使用・管理等における取組

学校体育館倉庫の一部を地域展開での消耗品等の置き場として開放。



取組の成果

体育館の一部を開放できたことで、備品や消耗品の管理がしやすくなった。
※事業計画書記載内容ではないが、部活動指導員としても関わっていただいている方に地域指導者としても関わっていただけているため、学校施設の開放や備品の管理がしやすかった。

今後の取組における課題

学校施設利用上の負担軽減に向けた取組

学校施設利用の手続き方法等については具体的な検討ができていない。

課題への対応方針

学校施設利用に関する手続きを管轄する部局との連携を強化を目指す。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ク：その他の取組

取組事項

平日の移行については、男子バスケットボールで4回練習を実施。

取組の成果

平日に地域指導者からの指導が可能だったこと自体が成果と捉えられる。
実現可能性について見通しをもつことができた。

今後の取組における課題

平日の移行について、持続可能なものになっていない。
移動時間、練習に必要な用具の運搬等を現実的に捉えると、平日に複数校から生徒が集まり練習をすることは、藤岡市内の学校間の距離等から、現状ではかなり難しい。

課題への対応方針

できる範囲で少しずつ平日の移行に取り組んでいくことが現実的と考えられる。まずは休日の移行について進めていく。
1つの部活動をそのまま地域指導者に見ていただけるような展開を中心に考えていく。



【男子バスケ：作戦確認】



【男子バスケ：ストレッチ補助】

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

実証事業開始初年度として、多くの情報を得ながら活動に取り組むことができた。大きな一歩になったと感じる。地域指導者として関わっていただいたお二方に感謝したい。

生徒や保護者の思いにふれられたものもあったので、その思いを大切にしながら、今後の地域展開に生かしていきたい。また、部活動に携わる教師の立場にもしっかりと目を向け、生徒、保護者、教師たちにとって納得できるものになるように勧めていきたい。

特にあげられる成果

- 地域展開のモデルとして選定した剣道とバスケットボールの練習について、他の中学校からの参加をオープンにできた。
- 競技指導だけでなく、ルールや審判技術についての講習も企画、実施した。

明確になった課題

- ▲ 参加がオープンになったものの、複数の中学校の生徒が練習に参加する際、練習会場への移動が難しい。中学校間の距離が影響する部分がある。
- ▲ 複数校の生徒が集まり合同で練習を行っても、中体連の大会に参加する際には、練習仲間が敵味方に分かれてしまうという状況が生じ、心情面的に複雑である。

●成果の評価

実証事業に参加したことで、これまで把握しきれていなかった生徒や保護者の意識について、アンケート等でふれることができた。好意的に捉えているものの、やはり学校という枠から外に出ることへの不安感も少なからずあったので、このことを理解しながら丁寧に進めていく必要があることが再確認できた。

また、地域指導者について、部活動指導員としての取組から地域展開につなげられたことはとてもよかった点だと感じる。技術指導だけでなく、審判法やルールの講習等も安全・安心な取組につながる取組だったと感じる。

しかし、指導者の質や量の確保についてはまだまだ大きな課題があることも事実である。今後の取組の軸の一つとして、展開を進める中に生かしていく。

●今後に向けて

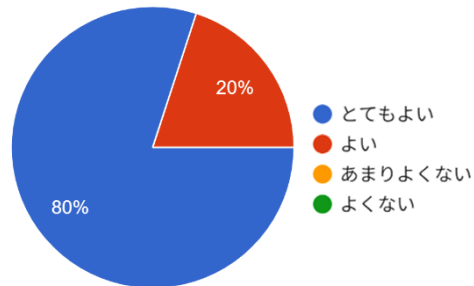
- ・ 指導者の確保については記述していないが、ずっとある課題である。積極的に地域とのかかわりをもてる体制づくりに努める。
- ・ まだ地域展開を一気に推し進める段階には至っていないが、地域連携を含め、できることから一つずつ進めていけるよう努める。
- ・ また、地域展開を進めるうえで、大きな要素となる推進計画や認定制度について、具体的に作成を進めていけるよう努める。

2.実証内容と成果②

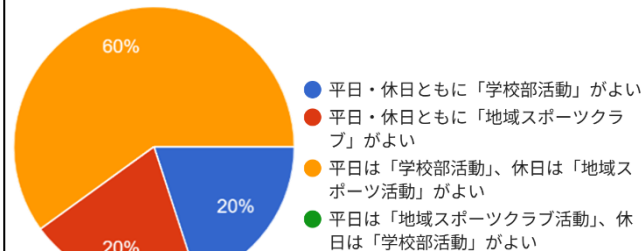
アンケート結果・参加者/関係者の声

●生徒アンケート結果

Q.参加した「地域スポーツクラブ活動」において、地域の指導者が指導することについて、あてはまる気持ちを選んでください。

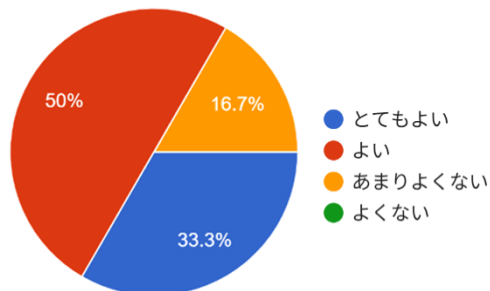


Q.今後の「学校部活動」と「地域スポーツクラブ活動」の実施について、あてはまる気持ちを選んでください。

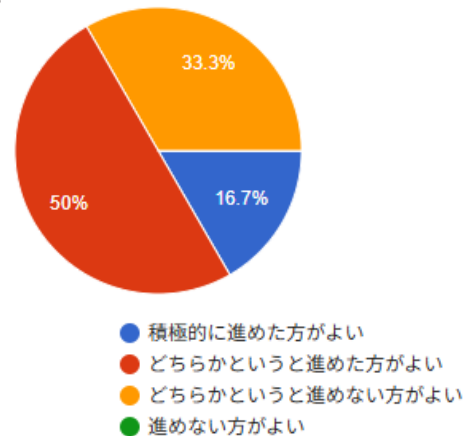


●保護者アンケート結果

Q.「地域スポーツクラブ活動」で、地域の指導者が指導することについて、あてはまる気持ちを選んでください。



Q.今後の「地域スポーツクラブ活動」が進むことについて、あてはまる気持ちを教えてください。



●参加者/関係者の声

地域指導者

顧問の先生と学校のルール、授業に取り組む姿勢、部活動の活動計画等について共有しながら、競技力向上の指導に偏らないようにした。この取組にとってもやりがいを感じ、来年度も関わっていきたいと考えている。

部活動顧問

自分が経験してこなかった部活動の顧問になったので練習メニュー等を考えるのに時間がかかっていたが、今回専門的な指導ができる方に関わってもらえて、生徒にとってもよいことだと感じた。また、自分自身の負担も減ったように感じる。

生徒

これまでだと顧問の先生の都合が悪いときには練習ができなかったけど、今年度は練習ができてよかった。続いてほしい。それと、専門的な内容も増えて、教えてもらえるのもとても嬉しい。

保護者

学校部活動でも同じですが、いじめがなく、教育の一環としてのスポーツ活動となる様にしていきたいと思います。

また、指導者の方は安心して任せられるようなお人柄を求めたい。

2.実証内容と成果③

参考資料



【剣道：打ち込み稽古】

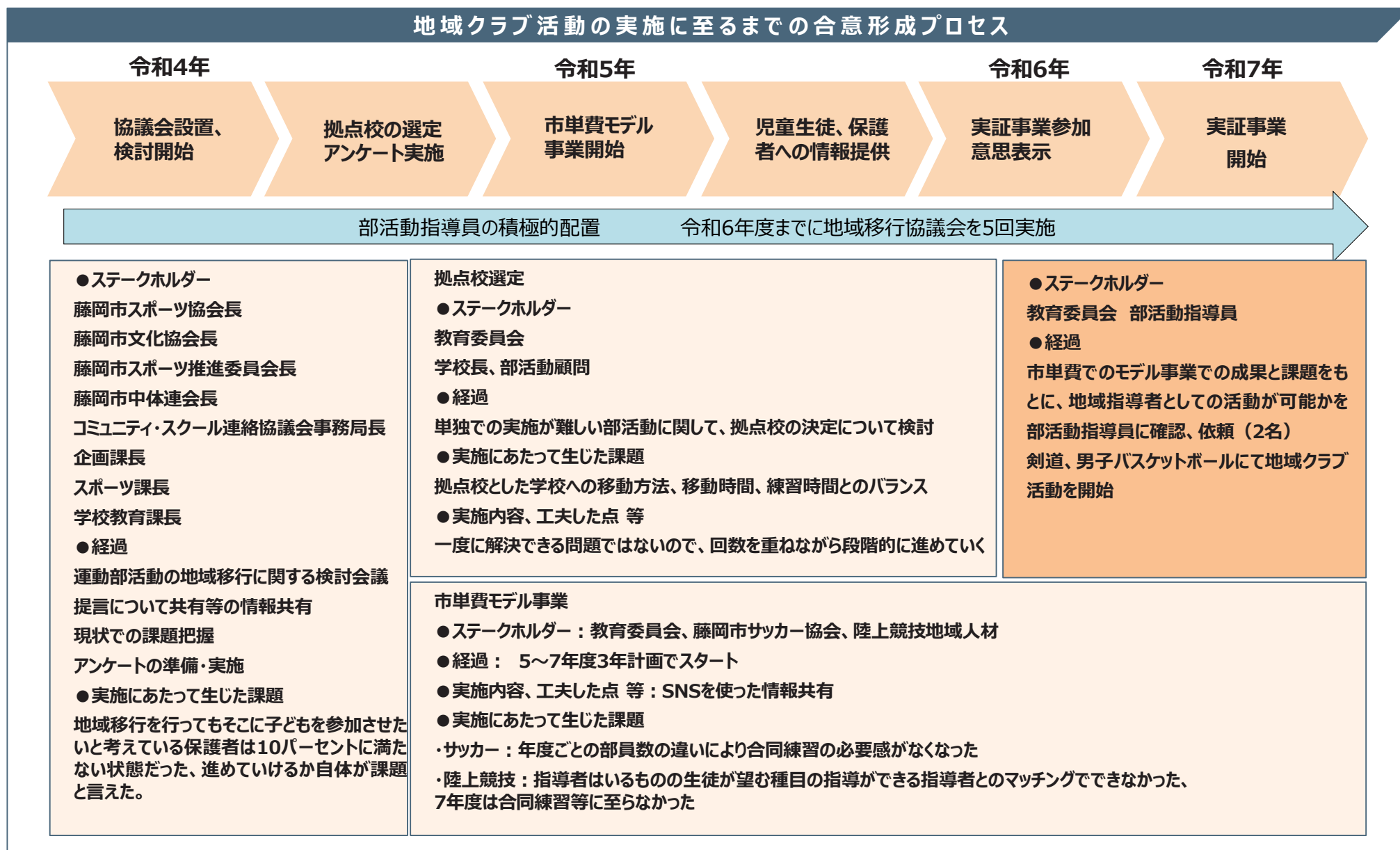


【剣道：試合形式での稽古】



【剣道：練習終了後指導者からの講評、生徒振り返り】

2.実証内容と成果



3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

令和8年度重点課題

- 国のガイドラインや県の推進計画を基に、藤岡市地域展開推進計画を作成
- 認定制度について藤岡市における認定の方向性等を検討、決定の上、関係諸機関に周知していく
- 拠点校方式について、拠点となる学校や種目について具体的に検討
- 部活動指導員の積極的配置の継続
- 地域スポーツクラブと、部活動指導員の連携について検討
- 藤岡市版人材バンクの作成に向けた検討

令和8年度～10年度 「改革実行期間」(前期)

令和11年度～13年度 「改革実行期間」(後期)

- 実行期間(前期)で休日の部活動を地域にあずけられる体制の整備を進める
- そのための指導者の発掘・選定を進める(教員の兼職兼業についても検討を進める)
- 現行の地域スポーツクラブ(剣道・男子バスケットボール)による指導の継続
- 指導者へのリスクマネジメント等に関する専門的な研修を行っていく
- 部活動地域展開を扱う専門部署、人員の配置について検討
- 国からの補助がなくなっても運営できる体制整備について検討、受益者負担の額等についても並行して検討していく
- 練習以外の、運営全般についても地域で自走できる体制整備を目指す
※できるところから進めていく 特に休日の地域展開に関して重点を置いていく

生徒、保護者、地域、教員等、複数の立場から納得できるよう情報の共有、共通理解に向けた協議をしながら進めていく

令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

群馬県榛東村

自治体名： 榛東村

担当課名： 学校教育課

電話番号： 0279-26-2762

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	27.92km ²
人口	14,560人
公立中学校数	1校
公立中学校生徒数	381人
部活動数 (運動部活動のみ)	13部活
地域クラブ活動数	2クラブ
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済み
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済み

地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

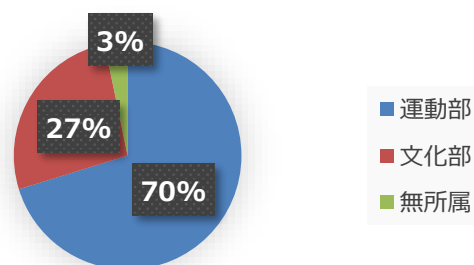
令和5年度に行った調査によると榛東村内の中学校においては、90%を越える生徒が16ある部活動のいずれかに所属している。しかし、半数の部活動においては競技経験のない教員が指導に当たっている。

また、近年の少子化による生徒数の減少や、教員数の減少により、今後は従来と同様の部活動を維持、運営していくことが極めて困難な状況となっていくことが予想される。

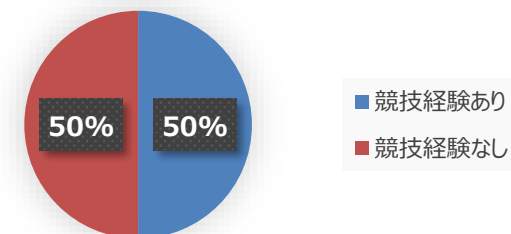
そうした状況下において、国が令和5年度から令和7年度までの3年間で「改革推進期間」と位置づけ、地域連携・地域移行への取組を推進していることや、本県の「学校部活動の地域連携および地域クラブ活動への移行に向けた推進計画」を踏まえ、本村としても、子どもたちのより良いスポーツ・文化芸術環境を整備するため、地域移行に係る協議会を設置し、榛東村における地域移行の在り方について協議している。

課題としては、地域指導者の不足が挙げられる。これを解決するために、指導者の人材バンクの設置を検討している。

榛東中学校における
部活動加入割合



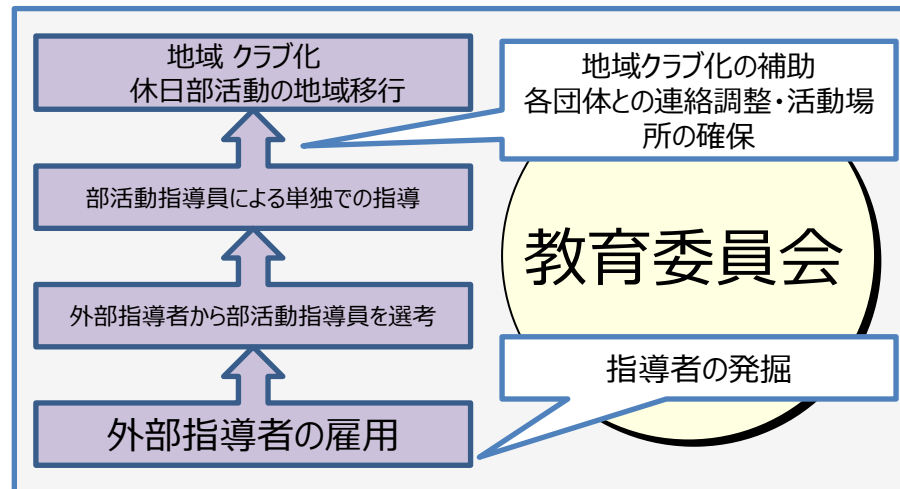
競技経験のない教師が指導する
部活動の割合



2.実証内容と成果

運営体制・役割

●市区町村における推進体制図



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

本村では、教育委員会事務局内にある学校教育課と生涯学習課が連携し、以下の業務を実施した。

- 榛東村部活動地域移行協議会の開催
- 地域指導者等を対象とした研修会の開催
- 地域クラブ活動の事務補助

年間の事業スケジュール

令和7年7月	第一回協議会の開催 ・榛東村の地域移行の現状について ・今年度の計画について
令和7年9月	第一回地域指導者研修会の開催 ・部活動・地域クラブ活動における危機管理について
令和7年11月	第二回協議会の開催 ・榛東村における部活動地域移行に係る課題の解決策の検討
令和8年1月	第二回地域指導者研修会の開催 ・スポーツをする成長期の子どもたちに必要な栄養について
令和8年2月	第三回協議会の開催 ・榛東村における部活動地域移行に係る課題の解決策の検討
	通年で地域クラブ活動事務の補助、指導者の発掘を実施

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		2クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）	2クラブ（2部活動）	
	B：部活動にはない種目等、新規の地域クラブ活動数	0クラブ	
全体の指導者数	15人	全体の運営スタッフ数	15人

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数 (平日・休日)	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
ペガッサVC	総合型スポーツクラブ	バレーボール	・平日 2回 ・休日 1回	19:30から	50名程度 (小学6年生及び高校生も受け入れている)	通年	11人	11人 (コーチライセンス所有者6名)	月会費 2,000円 /年会費 500円 (等)	令和8年度から地域クラブとして参加
北群馬クラブ	中学軟式野球クラブチーム	軟式野球	・平日 1回 ・休日 1回	平日 19:00から 休日 9:00から	中学生 25名程度	通年	4人	4人	月会費 4,000円	地域クラブとして参加

③その他、体験会やイベント等の開催実績

なし

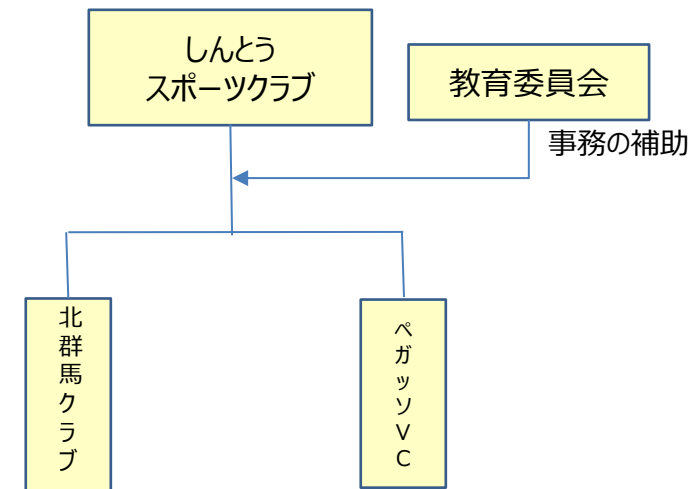
2.実証内容と成果

主な取組例

●ペガッソVC活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	バレーボール
運営団体名	ペガッソVC
期間と日数	週3回
指導者の主な属性	地域指導者、部活動指導員
活動場所	しんとうスポーツアリーナ
主な移動手段	自転車 自動車（保護者送迎）
1人あたりの参加会費等（年額）	24,000円/年
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：500円/年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



●指導者や運営スタッフ等の役割分担等

- 代表指導者
 - 役割：クラブの運営
 - 指導全体の総括
- クラブ指導者
 - 役割：参加生徒の指導

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

榛東村部活動地域移行協議会は、スポーツ協会会長、スポーツ推進委員長、スポーツ少年団本部長、しんとうスポーツクラブ会長、中学校PTA会長、中学校校長、地域スポーツクラブ代表、学校教育課長、生涯学習課長を委員として構成し、地域移行を実際に担う指導者2名も委員として参加する体制で設置した。協議会は、年3回（7月、12月、2月）開催し、部活動の地域移行に向けた検討を継続的に行った。

協議会では、まず榛東村における部活動の現状について情報共有を行い、地域移行を進める上での課題を整理した。具体的には、地域指導者の確保や育成、活動場所の確保、保護者負担の在り方等について意見交換を行い、課題解決に向けた方策の検討を進めた。

また、他市町村における部活動の地域移行の状況や、国や県の方針について情報共有を行い、本村において参考となる取組や留意点について協議した。これにより、榛東村の実情に即した段階的な地域移行の進め方について理解を深めることができた。

さらに、部活動指導員や外部指導者として地域移行を担う立場の委員から、現場の視点による課題や要望が示された。

取組の成果

- ・ 榛東村における部活動地域移行に関する地域のニーズや期待、不安を具体的に把握することができた。
- ・ 国および県が示す部活動地域移行の方針や最新の動向について、関係者間で共通理解を図ることができた。
- ・ 他市町村の取組状況や事例を共有することで、榛東村における今後の方向性や検討課題について、より具体的なイメージを持って協議することができた。

今後の取組における課題

- ・ 参加者から、指導体制や報酬、活動場所等について不安や懸念が伝えられており、具体的な制度設計や支援体制の明確化が今後の課題となっている。
- ・ 広域で活動している地域クラブも存在することから、クラブを継続的に支援していくためには、市町村間での連携体制の確保や役割分担の整理の必要性を感じた。
- ・ 学校施設を活用する上での、地域クラブと学校との連携の必要性を感じた。

課題への対応方針

今後は、地域クラブの運営に関する指導体制や報酬、活動場所等について整理を進めるとともに、関係団体と連携しながら具体的な制度設計及び支援体制の整備を図る。また、広域的に活動する地域クラブへの対応については、近隣市町村との連携を図りながら役割分担の整理を進め、持続可能な活動体制の構築を目指す。学校施設を活用する上では、地域クラブと学校部活動が同じ立場で相談していくこととする。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

部活動の地域移行に伴い、地域クラブ活動に関わる指導者の資質向上を目的として、年間2回の指導者向け研修会を実施した。9月の研修会では、

「部活動・地域クラブ活動における危機管理（コンプライアンス向上、保護者対応等）について」

講師：NPO法人新町スポーツクラブ 理事長 小出 利一 様

1月の研修会では、

「スポーツをする成長期の子どもたちに必要な栄養について」

講師：公認スポーツ栄養士 飯野 直美 様

の2講義を実施した。

指導現場で起こり得るリスクへの対応力向上と、成長期の子どもたちを支えるための正しい知識の習得を目的とした内容であった。

取組の成果

- ・ 地域クラブ活動における指導者の責任や立場、コンプライアンス意識について理解が深まり、ハラスメント防止や事故防止への意識向上につながった。
- ・ トラブルの未然防止や円滑なコミュニケーションの重要性を再認識する機会となった。
- ・ 栄養に関する講義を通して、成長期の子どもに必要なエネルギー量や食事の考え方について理解が深まり、競技力向上だけでなく健康面を重視した指導の必要性が共有された。

今後の取組における課題

- ・ 研修内容を日常の指導現場でどのように具体的に実践していくかについて、今後も継続したフォローが必要である。
- ・ 指導者だけでなく保護者とも研修内容を共有できる仕組みづくりが課題である。
- ・ 指導者が今後も増えたり、代わったりすることが考えられるため、特にコンプライアンス研修に関しては継続して実施していくことが必要となる。

課題への対応方針

研修で得られた知識や内容を指導現場で具体的に実践していくため、今後も継続的に指導者向け研修会を実施するとともに、研修内容の振り返りや情報共有を行う機会を設け、指導者の資質向上を図っていく。

また、研修で得られた知識や考え方については、保護者にも理解を深めてもらうための仕組みを整えていく。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

本事業では、榛東村部活動地域移行協議会の開催及び指導者向け研修会の実施を通して、部活動の地域移行に向けた体制づくりと人材育成の取組を進めた。

協議会においては、関係団体や学校関係者、地域指導者が参加し、榛東村における部活動の現状や課題について共有するとともに、地域移行に向けた方向性について協議を行うとともに、県の動向について理解を深めることができた。

また、指導者研修では、危機管理やコンプライアンス、成長期の子どもに必要な栄養等、地域クラブ活動を担う指導者に必要な知識の習得を図る機会を設けることができた。

これらの取組により、関係者間における共通理解を図ることができたとともに、地域移行に向けた基盤づくりを進めることができた。

●成果の評価

協議会の開催により、学校、地域スポーツ団体、行政等関係者が一堂に会し、榛東村の実情を踏まえた部活動地域移行の在り方について継続的に協議する体制を整えることができた。また、地域の担い手となる指導者の意見を直接共有することで、現場の視点を踏まえた課題を共有することができた。

指導者研修の実施により、地域クラブ活動における指導者の責任や役割に対する理解が深まり、コンプライアンス意識や安全管理への意識向上につながった。これにより、地域移行を支える指導者の資質向上に一定の成果が見られた。

●今後に向けて

今後は、協議会における協議を継続しながら、指導体制や報酬、活動場所の確保等、地域クラブ活動の具体的な制度設計について検討を進めていく必要がある。また、指導者研修会も定期的に行うことで、指導者のコンプライアンス意識や安全管理への意識を高め、安定した組織運営につなげていく。

さらに、国及び県の方針や他市町村の取組状況を踏まえながら、榛東村の実情に即した段階的な地域移行の在り方について引き続き検討を進めていく。

2.実証内容と成果②

参考資料



【ペガッソVC 活動の様子】



【北群馬クラブ活動の様子】



【第1回部活動指導員、外部指導者および地域指導者研修会の様子】



【第2回部活動指導員、外部指導者および地域指導者研修会の様子】

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



令和4年

担当局内の学校教育課、生涯学習課の2課で部活動地域移行に関する検討会を開催した。榛東村内のスポーツ団体の現在の状況を確認したり、榛東村における地域移行の方向性について協議したりした。具体的には、村内のスポーツ団体の指導者を把握したり、地域移行の実施の有無についても検討を開始した。

令和5年

地域の担い手となる可能性のある部活動指導員及び外部指導者と面談を実施し、指導に当たっての課題として認識している事項や現在の状況について情報交換を行った。
また、初回の協議会においては、群馬県のコーディネーターを招聘し、群馬県の方針の確認を行うとともに、榛東村における部活動の地域移行の方向性について協議し、決定した。

令和6、7年

令和6年、7年に、生徒及び保護者、地域指導者を対象としたアンケートを実施した。アンケート結果からそれぞれのニーズを把握し、方向性の見直し等を行い、推進計画の内容について検討した。

また、アンケート結果から把握した生徒及び保護者のニーズを踏まえ、推進計画を策定した。推進計画については、協議会において適宜評価を行うとともに、国及び県の方針やガイドライン、取組の進捗状況等を勘案し、必要に応じて見直しを行う予定である。

なお、地域クラブの活動の実施については、コンプライアンスを遵守するとともに、適正な部活動の方針に則った活動が行われ、生徒及び保護者に対して十分な説明がなされ、理解が得られている活動から順次地域クラブ化を進め、活動を実施する。

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

推進体制の確立と運営【令和6年4月～】

- 榛東村部活動地域移行協議会を開催し、部活動地域移行に係る事業の推進を図る。
- 部活動の現状や県・近隣市町村の状況を把握する等、当事業の推進に必要な情報を収集する。
- 部活動に関わる児童生徒、保護者及び地域指導者のニーズを把握するためのアンケートを実施する。



指導者の確保及び資質の向上【令和6年10月～】

- 学校部活動が担ってきた教育的意義に沿って指導ができる指導者を確保する。
- 人材バンク制度を整備し、指導者の公募を行う。
- コンプライアンス等を遵守した指導を行えるよう、指導方法や、子どもたちとの関わり方に関する研修を実施する。



地域クラブ化【令和6年11月～】

- 以下の要件を満たした部活動から、休日の部活動の地域移行を推進する。
- ① コンプライアンスの遵守や適正な部活動の運営に関する方針にのっとった活動が実施されている。
- ② 生徒・保護者に十分説明され、理解が得られている。



地域スポーツ認定制度の設立及び地域スポーツクラブの法人化【令和8年4月～】

- 部活動の地域移行を進めるに当たり、受け皿となる地域クラブの信頼性を確保するため、地域スポーツクラブ認定制度の創設及び地域クラブの法人化を推進する。

令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

群馬県吉岡町

自治体名：群馬県吉岡町

担当課名：教育委員会事務局生涯学習室

電話番号：0279-54-1054

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	20.46km ²
人口	22,833人
公立中学校数	1校
公立中学校生徒数	666人
部活動数 (運動部活動のみ)	15部活
地域クラブ活動数	15クラブ
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

【現状】

- 町内唯一の中学校である吉岡中学校には、11競技（男女別で15部活）の常設運動部があり、恒常的に休日のどちらか一日の半日程度活動を行っている。（野球、サッカー、柔道、剣道、バドミントン、陸上、ソフトボール、バスケットボール男女、バレーボール男女、卓球男女、ソフトテニス男女）
- 地域クラブ指導者が29名（部活動指導員7名を含む）いるが、休日の部活動指導が顧問教員の負担になっており、持続可能な部活動体制の構築が必要といえる。
- 吉岡町には12競技のスポーツ少年団があり、地域の指導者が長年に渡り小中学生（主に小学生）のスポーツ指導に携わっている。

【課題】

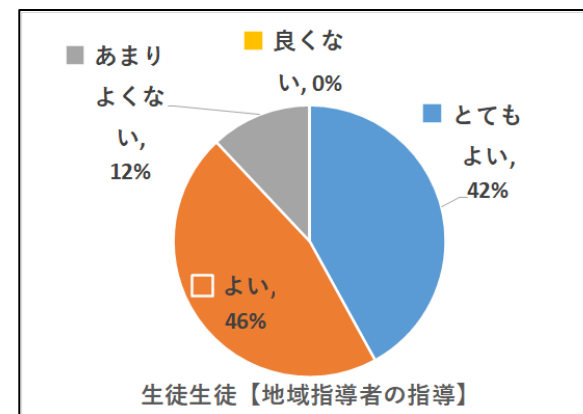
- ① 生徒や保護者、教職員、地域指導者、地域住民等への周知・理解
- ② 部活動顧問と地域指導者の連携・協働（指導方針のすり合わせ、練習試合の対応等）
- ③ 地域スポーツクラブ加入に係る保護者の金銭的な負担
- ④ 持続可能な新たなスポーツ活動体制の構築
- ⑤ 指導者の資質向上

【吉岡中生徒アンケート (令和7年1月実施)】

Q.「地域スポーツクラブ活動」において、地域の指導者が指導することについて、当てはまる気持ちと理由を教えてください。(1つ回答)

【理由】

- ① 技術力が上がる (21%)
- ② 丁寧に教えてもらえる (17%)
- ③ 的確なアドバイスをしてもらえる (13%)

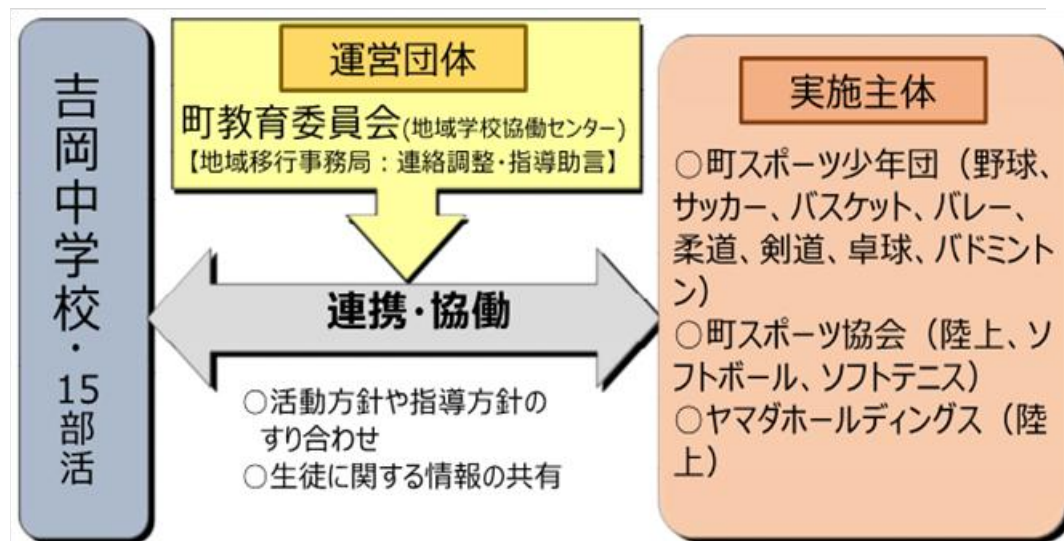


【出典：吉岡町教育委員会 地域スポーツクラブ活動体制整備事業アンケート集計結果】

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●市区町村における推進体制図



●行政組織内での役割分担

- ◎教育委員会(生涯学習室)
 - ・地域移行事務局(地域学校協働センター)
 - ・吉岡町地域移行検討委員会の運営
 - ・地域スポーツ団体(スポーツ少年団・スポーツ協会)との連絡調整・指導助言

- ◎教育委員会(学校教育室)
 - ・中学校との連絡調整
 - ・教職員の多忙化解消に向けた取組
 - ・部活動改革に向けた取組

年間の事業スケジュール

- 4月
 - ・校長と事務局の定例会(以後毎月1回)
 - ・地域スポーツクラブ活動開始Ⅰ(柔道・剣道・陸上・サッカー・バドミントン・ソフトボール・卓球・バレーボール)
- 5月
 - ・地域移行検討委員会①
- 6月
 - ・職員へ地域展開説明
 - ・指導者協議会①
- 7・8月
 - ・顧問と事務局の情報交換(部活動別)
 - ・地域移行検討委員会②
- 9月
 - ・生徒、保護者、教員に地域展開の説明
- 10月
 - ・第2・4土日の部活動地域移行開始
- 11月
 - ・指導者協議会②
- 12月
 - ・地域移行検討委員会③
- 1月
 - ・生徒・保護者・地域指導者・顧問アンケート
- 2月
 - ・吉岡中学校生徒向け説明会
 - ・地域クラブ参加のチラシ配信
- 3月
 - ・成果報告書作成
 - ・参加者へのスポーツ安全保険加入

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		15クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）	15クラブ（15部活動）	
	B：部活動にはない種目等、新規の地域クラブ活動数	0クラブ	
全体の指導者数	29人	全体の運営スタッフ数	2人

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
吉岡町地域クラブ	町教育委員会	柔道・剣道・陸上・サッカー・ソフトボール・卓球・バレーボール・野球・ソフトテニス・バスケットボール	月1回～4回	9:00～12:00	500人くらい	10月～3月	吉岡中学校施設・社会体育館	29人	2人（内、兼務×2人）	なし	中体連：部活動 その他：地域クラブ

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 第1回 交流イベント（2月）

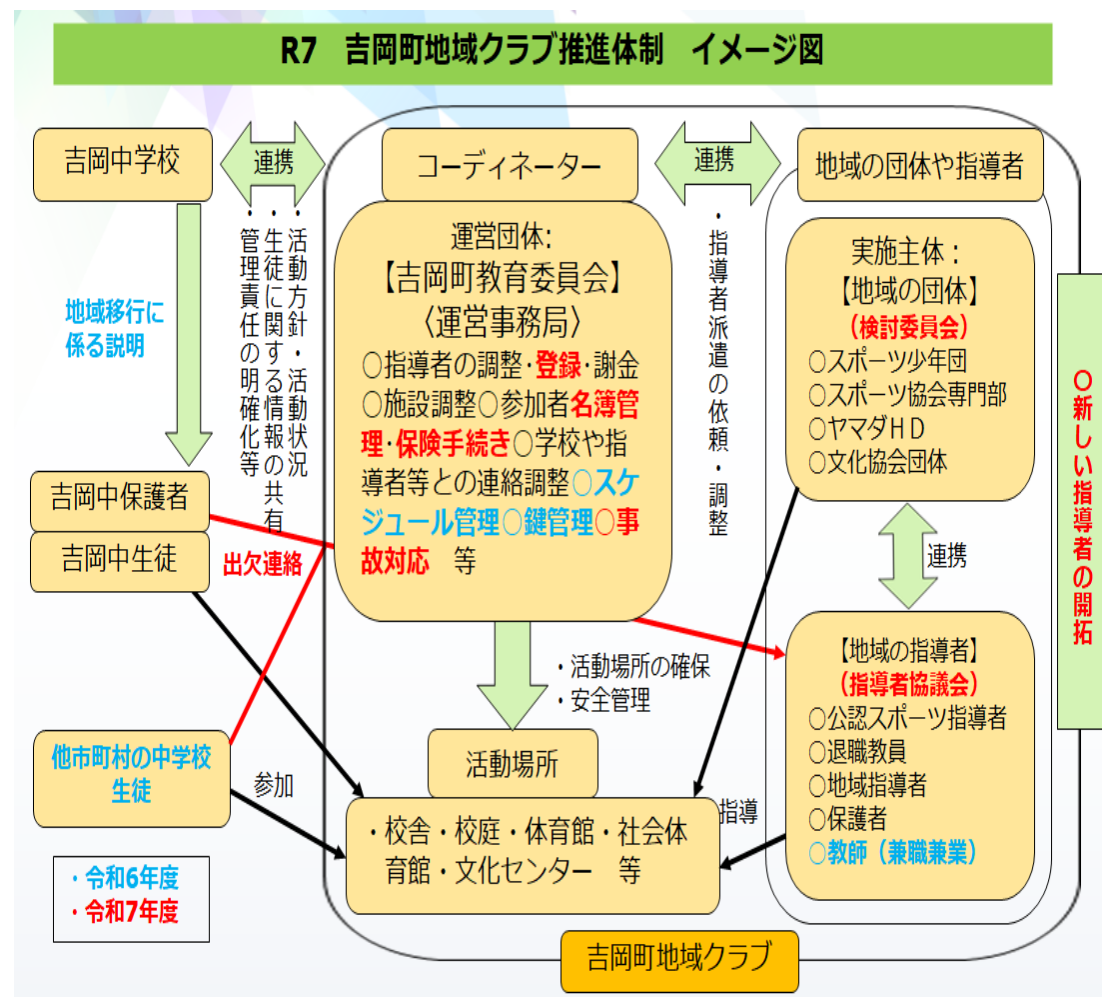
2.実証内容と成果

主な取組例

●吉岡町地域クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	柔道・剣道・陸上・サッカー・ソフトボール・卓球・バレーボール・野球・ソフトテニス・バスケットボール
運営団体名	吉岡町地域クラブ
期間と日数	柔道・剣道・陸上・バドミントン：4月～3月 月4回程度 ソフトボール・卓球・バレーボール・野球・ソフトテニス・バスケットボール 月1～2回程度
指導者の主な属性	元教員、スポーツ少年団団長、部活動指導員
活動場所	吉岡中学校・県内中学校等
主な移動手段	自転車・保護者自家用車
1人あたりの参加会費等（年額）	0円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- 吉岡町部活動地域移行検討委員会の実施
- 吉岡町地域クラブ指導者協議会・研修会の実施（2回）
- 地域指導者と中学校顧問との情報交換会の実施

取組の成果

- 実施主体である地域スポーツクラブ（スポーツ少年団、スポーツ協会専門部）の各団体が休日部活動の受入れを前向きに捉え、取組を始めてくれた。
- 地域スポーツ指導者と吉岡中部活動顧問とを繋げることで、指導者同士が地域移行に関する期待や課題を共有することができた。また、地域移行に向けた取組を全部活動（競技）ごとに開始することができた。
- 「地域の子供は、学校を含めた地域で育てる」という目標に向けて、地域と学校が連携・協働した活動を展開することができた。

今後の取組における課題

【課題1】

地域移行に関する吉岡町の構想や取組、今後のスケジュール等の情報を、生徒や保護者、教職員、地域住民等に周知し、理解・協力を求めるための周知方法と場の設定

【課題2】

持続可能な体制構築のために必要な指導者の量的・質的な確保

課題への対応方針

【課題1への対応】

- ①多層的な説明会の実施（場の設定）
- ②デジタル・紙媒体のハイブリッド周知
- ③共通理念「地域の子供は、地域で育てる」の浸透

【課題2への対応】

- ①既存の地域人材を核とした一貫指導（量的確保）
- ②民間企業・外部リソースとの複合型モデル（質・量の補完）
- ③指導者協議会の発足と定期研修（質的向上）

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

コーディネーターの具体的な動きの実績

- 吉岡町部活動地域移行検討委員会の実施（3回）
- 県統括コーディネーターと連絡を取り、「法人化」に向けての研修の実施
- 検討委員会の前に、委員長と協議内容について打合せの実施
- 吉岡町地域クラブ指導者協議会・研修会の実施（2回）
- 指導者協議会の内容について指導者の代表と事前調整
- 研修について、県教委や講師（大学教授）と連絡調整
- 地域指導者と中学校（校長・顧問）との情報交換会の実施
- 夏休み中に各部活動顧問と個別面談の実施
- 地域クラブ活動を参観し、地域クラブ指導者との面談の実施
- 地域クラブ指導者からの相談について面談実施
- 新しく地域クラブ指導者になる方と校長・コーディネーターとの面談



【各部活動顧問との個別面談】

地域クラブ活動の運営効率化に向けた取組

- 既存の事務局機能（スポーツ少年団等）の一元化
- 民間企業との連携による「指導者確保・調整」の外部委託
- 交付金制度の創立による財務手続きの透明化・迅速化

運営団体・実施主体の安全性確保に向けた取組

- 公費（町負担）による「スポーツ安全保険」の一括加入
- 指導者の安全保険・資格取得費用の「交付金サポート」
- 当面の「学校顧問の立ち合い」によるソフトランディング
- 規約・ガイドラインの策定による責任関係の明確化

地域クラブ活動におけるトラブル・事故発生時の対応方針

- 現場の最優先対応（救急・安全確保）
①初期対応の徹底 ②保護者への即時連絡
- 学校と地域クラブ、教育委員会の「一元的な連絡・報告フロー」
①迅速な情報共有 ②教育委員会への集約
- 「参加者規約」に基づく責任所在の明確化
○時間的・組織的な責任の境界線が明確化
- 保険手続きの迅速な 開始と再発防止策の実施
①保険窓口の手続き②検証と再発防止の義務化

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

- 顧問、保護者、検討委員会から指導者情報を得て、指導者確保に努める。
- 指導者に対して、今年度から「指導者協議会」を発足し、資質向上のための研修会を実施することができた。

取組の成果

- 指導者29名を確保した。
- 教員が兼職兼業で4名指導者として指導することができている。
- 指導希望する方と事務局が面談後、顧問との面談をし、指導者として活動することができている。

現在の吉岡中学校(部員数・指導者数) ①…1年生 ②…2年生 ③…3年生				■土日活動している部 17部活 移行完了 月1~2回		■指導者数 34名 (現職教員名6名) (部活動指導員:スポーツ7名+文化3名)			R7.12.1 現在
	柔道	剣道	サッカー	陸上	ソフトボール	バドミントン	卓球(女)	卓球(男)	野球
部員数	女子 ①4②5 計9名 男子 ①1②3 計4名	女子 ①2②1 計3名 男子 ①6②7 計13名	男子 ①9(クラブ)5 ②16	女子 ①11②8 計19名 男子 ①25②16 計41名	女子 ①11②4	女子 ①13②13	①8②6	①12②5	男子 ①5②0
合 計	13名(9名)	16名(15名)	男25名	60名	女15名(15名)	女26名(7名)	女14名(12名)	男17名(17名)	男5名
指導者数	2名	1名	2名	2名(ヤマダ1名) (兼職兼業1名)	3名	4名	5名 (ボランティア1名)		1名
(部活動指導員)	(1名)	(1名)	(1名)				(1名)		
	バレーボール (女)	バレーボール (男)	ソフトテニス (女)	ソフトテニス (男)	バスケット ボール(女)	バスケット ボール(男)	吹奏楽	合唱 (月2回)	総生徒数 446名
部員数	①6②13	①14②12	①9②9	①9②10	①5②6	①7②8	①19②25	①7②12	男子214名 女子232名
合 計	女19名(17 名)	男26名 (同)	女18名	男19名	女11名	男15名	44名	19名	計 362名 (81%)
指導者数	2名	2名 (兼職兼業1名)	1名	2名	兼職兼業1名	兼職兼業1名	4名 (兼職兼業1名)	1名	
(部活動指導員)	(1名)	(1名)	(1名)				(3名)		

【出典：吉岡町教育委員会 会議資料】

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

指導者研修の内容

研修名	成長期の子どもやスポーツ活動をする子どもに求められる食事の在り方
講師	木村典代氏（高崎健康福祉大学教授）
研修内容	・ スポーツをする子どもの基本の食事 ・ 家庭でできる食事のコツ・アイデア ・ こどもの食べる力を育むサポート

指導者研修受講者の声

- ・ 技術的な指導だけでなく、子供たちのコンディショニングや日頃の生活習慣への意識が高まった。
- ・ 多くの保護者や生徒に見てもらいたかった。
- ・ 学校全体としてもやる価値のある内容だと感じた。

保護者の声

- ・ スポーツをする中学生に必要な栄養素や、疲労回復に効く献立の工夫が具体的に分かり、毎日のご飯作りに対する不安や迷いが軽くなった。
- ・ 親子で参加したことで、子供自身が『何を食べるべきか』を自分で考えるようになった。
- ・ 部活動が地域展開へと移行していく中で、ただスポーツをさせるだけでなく、このように健康面や栄養面までトータルで学べる機会（セミナー）を地域で提供してもらえるのは親として心強い。



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

指導者の資格取得促進に向けた取組

- 資格取得資金の援助

指導者総数	29人
資格所持指導者数	11人
本年度資格を取得した指導者	2人



【指導者協議会 班別協議】

平日・休日の一貫指導に関する取組

1. 人材の共通化（兼職・学校部活動指導員の活用）

長年にわたり学校の「部活動指導員」や「外部指導者」を務めてきた地域住民を、休日の「地域クラブ（スポーツ少年団等）」の指導者としても任命しています。

2. 生徒・保護者との「厚い信頼関係」の継続

吉岡町では、実践研究として行われた吉岡中学校の剣道部などの事例において、もともと平日の指導に関わっていた人物がそのまま休日の地域クラブを指導する形をとりました。

3. 学校の教員（部活顧問）との「指導ノウハウの共有」

平日、学校の顧問教員が部活に立ち会う際、専門的なスキルを持つ指導員の指導方法を間近で見ることができます。

4. 運営面の一貫性（学校施設の一貫利用）

平日の部活動も、休日の地域クラブ活動も、基本的には生徒たちが通い慣れた「吉岡中学校」の施設をそのまま活用して行われます。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- 学校や生徒・保護者と連携していくため、9月に全校生徒・保護者に、第2・4土日の地域展開実施の説明を実施。
- 吉岡町部活動地域移行検討委員会の実施。
- 吉岡町指導者協議会の実施。
- 地域指導者と中学校顧問との情報交換会の実施。
- 実際に中学生の声を聞く場面の設定。

取組の成果

- 実施主体である地域スポーツクラブ（スポーツ少年団、スポーツ協会専門部）の各団体が休日部活動の受入れを前向きに捉え、取組を始めてくれた。
- 指導者協議会を実施したことにより、指導者同士が地域展開に関する期待や課題を共有することができた。
- 「地域の子供は、学校を含めた地域で育てる」という共通の目標に向かうことができた。

今後の取組における課題

- 地域展開に関する吉岡町の構想や取組、今後のスケジュール等の情報を、生徒や保護者、教職員、地域住民等に周知し、理解・協力を求めるための周知方法と場の設定 → 説明会の実施、町広報誌・議会だよりの活用
- 持続可能な体制構築のために必要な指導者の量的・質的な確保

課題への対応方針

- HPや町広報誌・議会だよりの活用するとともに、説明会等を通してより周知を図る。
- 指導者資格取得の促進、研修会の実施、交付金の充実。

【吉岡町地域展開リーフレット】

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

- 吉岡町部活動地域移行検討委員会において、「多世代・多種目に取組み、さらに活気ある吉岡町にする」にはどうしたらよいのか議論を行った。
- 横のつながりをつくるために交流・イベントの実施
- 多世代が集まる楽しい雰囲気づくり
- 次のステップに見合う事務局組織へ



【検討委員会「班別協議」】

取組の成果

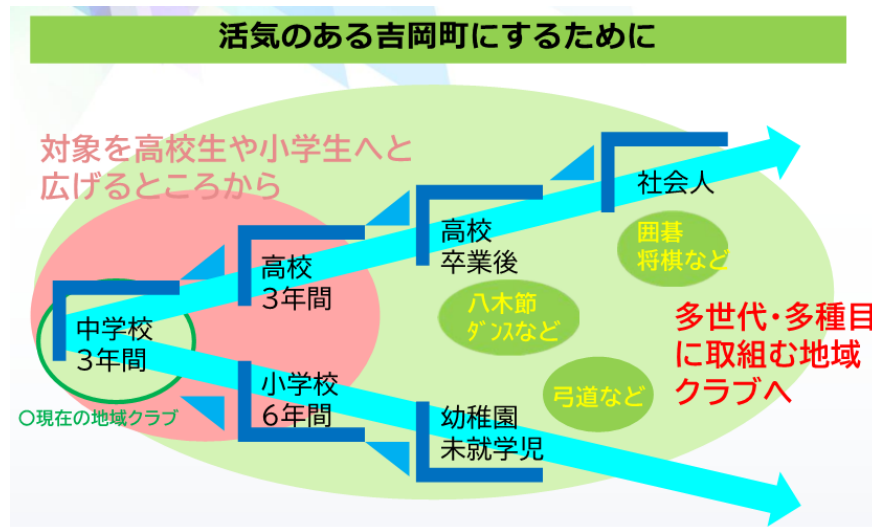
- この協議のおかげで「交流イベント」「リーフレット」「子どもの声を聞く」「法人化に向けての研修」等実施することができた。

今後の取組における課題

- 小学生や高校生への情報発信
- 多種目に広がる時、認定の条件や中体連とのかかわり

課題への対応方針

- 小学生は入学説明会を通して、高校生は中3生徒に説明することで情報発信していきたい。



【検討委員会資料「多世代・多種目の活動の共存」】

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

1. 既存組織を核とした円滑な受け皿の構築と実証事業の開始

従来の地域スポーツを支えてきた「スポーツ少年団」や「スポーツ協会」といった既存の団体が、受け皿の中心を担う体制が整った。スポーツ協会等が休日の部活動改革や地域クラブへの移行を前向きに捉え、主体的に参画したことで、ゼロから組織を立ち上げる手間を省き、迅速かつ安定した形で実証事業を開始することができた。

2. 「地域での教育」を軸とした学校と地域の強固な連携体制の構築

「地域の子供は、地域全体で育てる」という確固たる共通目標を掲げたことで、学校、保護者、地域住民の間で深い相互理解が生まれた。この理念の下、学校と地域が単なる役割分担にとどまらず、密接に連携・協働して子供たちを支える一体的な体制が構築された。

3. 中学校の全部活動における地域展開の同時並行実施

一部の種目や部活動のみを先行させる限定的な移行ではなく、当該中学校に存在する全部活動（計15部活動）において、地域展開に向けた具体的な取組を同時並行で進めることができた。これにより、生徒間での不公平感をなくし、どの部活動に所属していても等しく地域クラブの恩恵を受けられる環境が実現した。

4. 指導者協議会の発足による質の担保と情報共有の強化

地域移行後のスポーツ指導を一手に担う「指導者協議会」を新たに発足させ、定期的な研修会を開催する仕組みを確立した。これにより、指導者の技術面・安全面における資質向上が図られるとともに、指導者同士が日頃の課題や成功事例を気軽に分かち合える情報共有の場が確保された。

5. 「多世代・多種目が共存する未来のまちづくり」へのビジョンの昇華

有識者や関係者が集う検討委員会での真摯な議論を通じて、本取組の本質が単なる「学校部活動の地域への引っ越し」にとどまらないことが明確になった。子供から高齢者までが多様なスポーツに親しみ、交流できる「多世代・多種目が共存するまちづくり」という、より広範で持続可能な自治体の将来ビジョンが共有された。

●成果の評価

1. 休日部活動の受け皿として15の地域クラブを設置し、15部活動すべての地域移行に向けた運営実績を上げた。
2. 元教員や地域指導者等、計29名の指導者を確保し、適切な指導体制を整えることができた。
3. 生徒アンケートにおいて、地域指導者による指導に対し「技術が上がる」「丁寧に教えてもらえる」等、多くの生徒が肯定的な評価をしている。
4. 教員の負担軽減に向け、第2・第4土日の地域移行を具体的に開始し、一歩踏み込んだ実証を行った。
5. ICTやコミュニケーションアプリの活用により、出欠管理や報告業務の効率化が図られた。

●今後に向けて

1. HPや広報誌、説明会を通じて、生徒・保護者・地域住民への周知と理解促進をさらに強化する。
2. 持続可能な体制を維持するため、指導者のさらなる質的・量的確保と資格取得支援を推進する。
3. 現在の事務局組織から、**将来的な「法人化」**に向けた具体的な検討と研修を継続する。
4. 参加費（受益者負担）の適切な試算を行い、困窮世帯への支援策を含む収支バランスを確立する。
5. 活動対象を小学生や高校生、さらには多世代へと広げ、地域全体の活性化につながるクラブ展開を目指す。

2.実証内容と成果②

参考資料



【卓球クラブの様子】



【柔道クラブの様子】



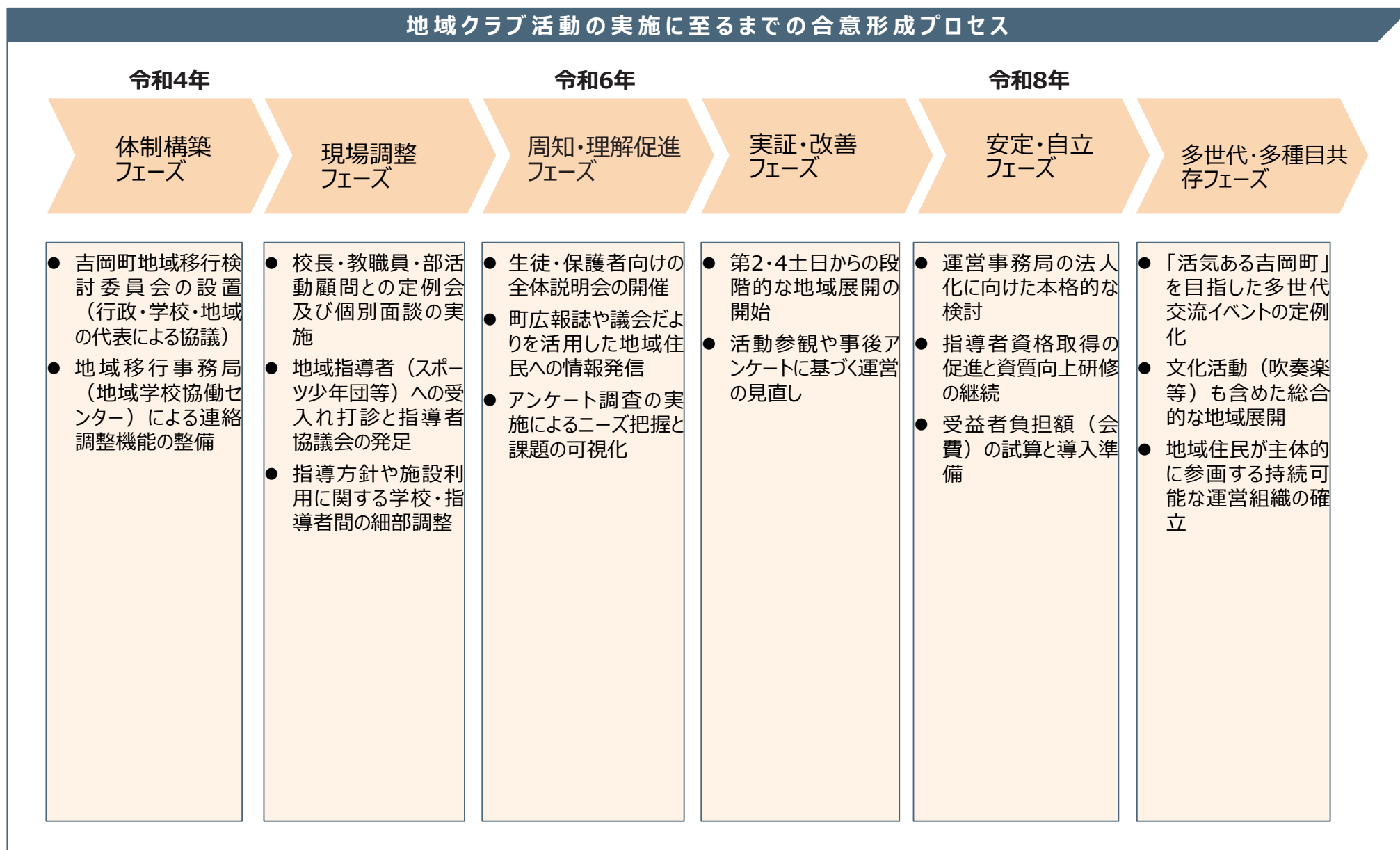
【ソフトテニスクラブの様子】



【指導者協議会（班別協議）の様子】

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

吉岡町 地域展開スケジュール 「全部活の地域展開（部活なし）の日」は塗りつぶし

※1 中体連の大会や練習会には顧問が出る（部活動指導員がいればその限りではない）

※2 中体連の大会および大会に向けての活動は、部活動を優先することができる

	令和5年	令和6年			令和7年			令和8年			令和9年			令和10年			令和11年	令和12年	令和13年	
国の部活動改革	【 改革推進期間 】							【 改革実行期間（前期） 】									【改革実行期間（後期）】			
	休日の地域展開を進める							着手していない地方公共団体の着手												
		1学期	2学期	3学期	1学期	2学期	3学期	1学期	2学期	3学期	1学期	2学期	3学期	1学期	2学期	3学期				
第1土日									新人戦終了から卒業式まで											
第2土日			新人戦終了から卒業式まで																	
第3土日										新人戦終了から卒業式まで										
第4土日							新人戦終了から卒業式まで													
第5土日											新人戦終了から卒業式まで									

9月